

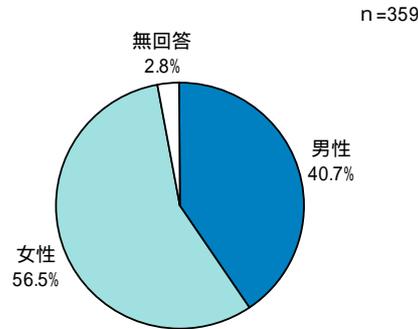
第2章 市民アンケート・若年者調査

1. あなたのことについて

(1) 性別

F 1 あなたの性別は。(1つに)

性別は、「女性」56.5%、「男性」40.7%であり、女性が男性を上回る。

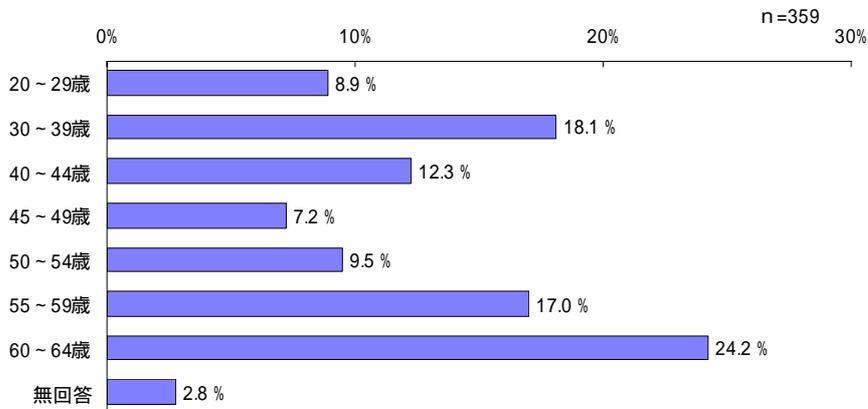


(2) 年齢

F 2 あなたの年齢は。(1つに)

年齢は「60～64歳」が24.2%、「30～39歳」が18.1%、「55～59歳」が17.0%、「40～44歳」12.3%などである。

第2号被保険者である40歳以上は70.2%、7割である。



[性別]

男性は「30～39歳」23.3%、「60～64歳」22.6%、「55～59歳」17.1%などの順であるが、女性は「60～64歳」26.6%、「55～59歳」17.7%などの順である。

第2号被保険者は、男性67.8%、女性75.3%である。

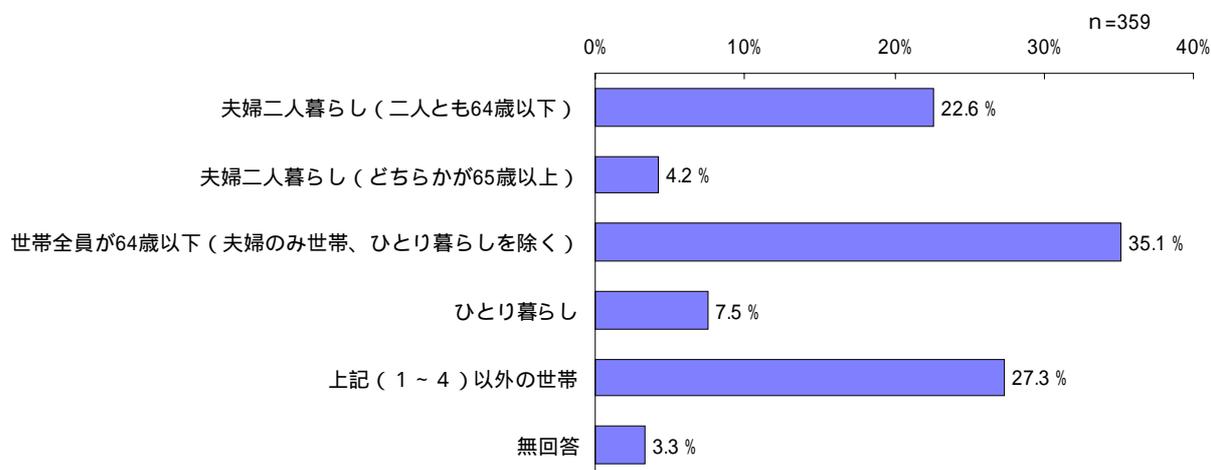
単位：%

		回答者数 (人)	20～29歳	30～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	無回答
全 体		359	8.9	18.1	12.3	7.2	9.5	17.0	24.2	2.8
性別	男性	146	8.9	23.3	13.0	6.2	8.9	17.1	22.6	0.0
	女性	203	9.4	15.3	12.3	8.4	10.3	17.7	26.6	0.0

(3) 同居家族

F 3 あなたが同居されているご家族は。(1 つに)

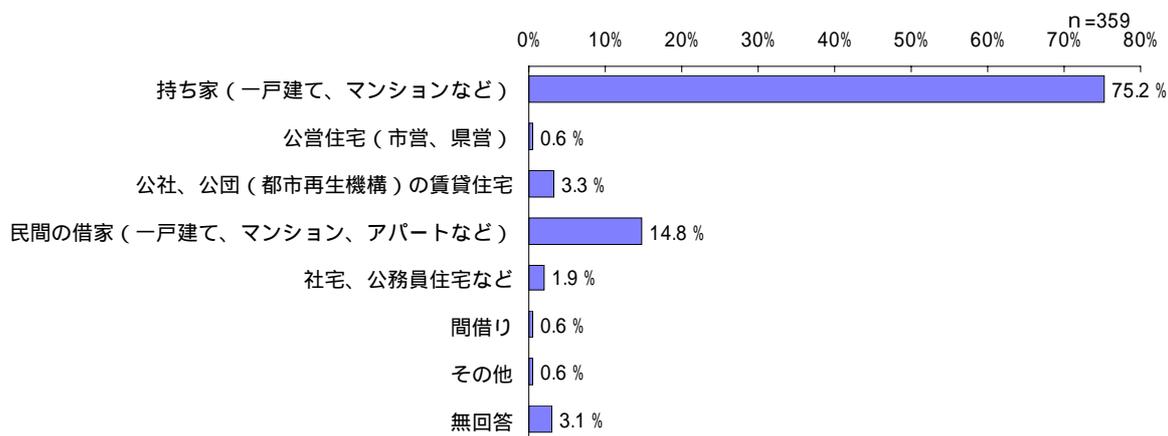
同居の家族は、「世帯全員が 64 歳以下 (夫婦のみ世帯、ひとり暮らしを除く)」35.1%、「上記以外の世帯」27.3%、「夫婦二人暮らし (二人とも 64 歳以下)」22.6%が主なところである。



(4) 住まい

F 4 お住まいは次のどれですか。(1 つに)

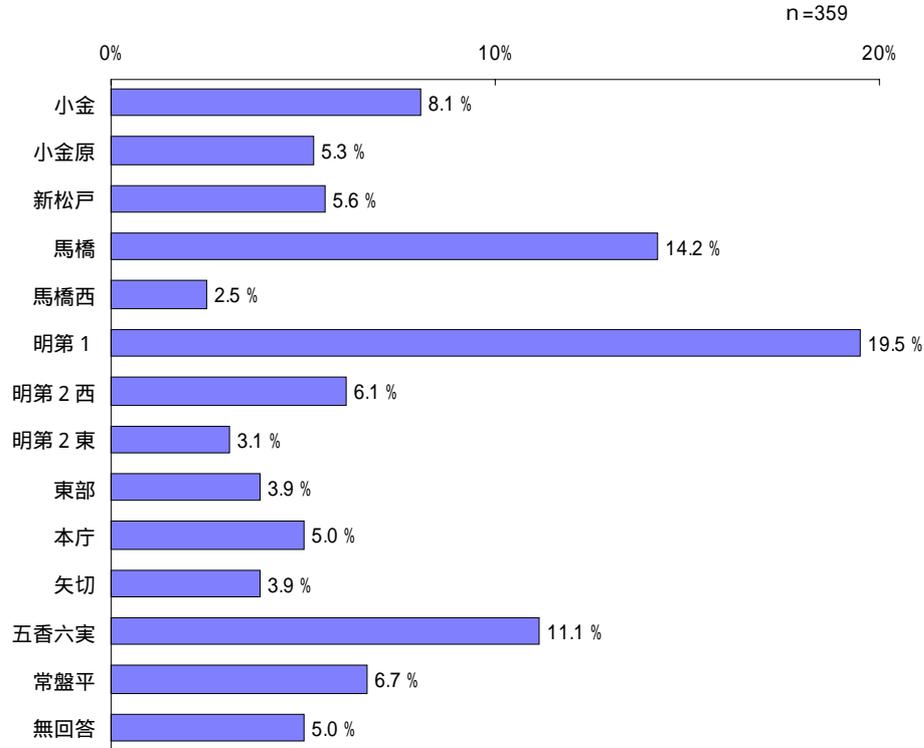
「持ち家 (一戸建て、マンションなど)」が 75.2%、以下「民間の借家 (一戸建て、マンション、アパートなど)」14.8%、「公社、公団 (都市再生機構) の賃貸住宅」3.3%などである。



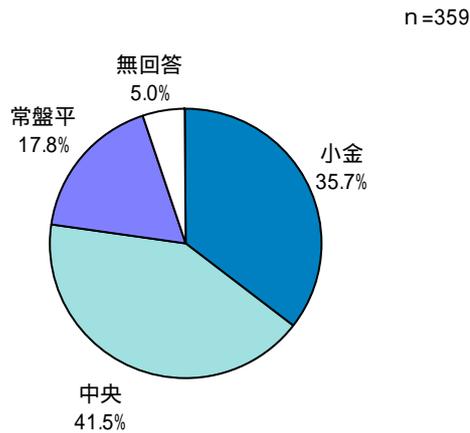
(5) 居住地区

F5 あなたの住所はどちらですか。(1つに)

13の日常生活圏域でみると「明第1」19.5%、「馬橋」14.2%、「五香六実」11.1%、「小金」8.1%、「常盤平」6.7%などの順である。



また、地域包括支援センター管轄では、「中央」41.5%、「小金」35.7%、「常盤平」17.8%である。



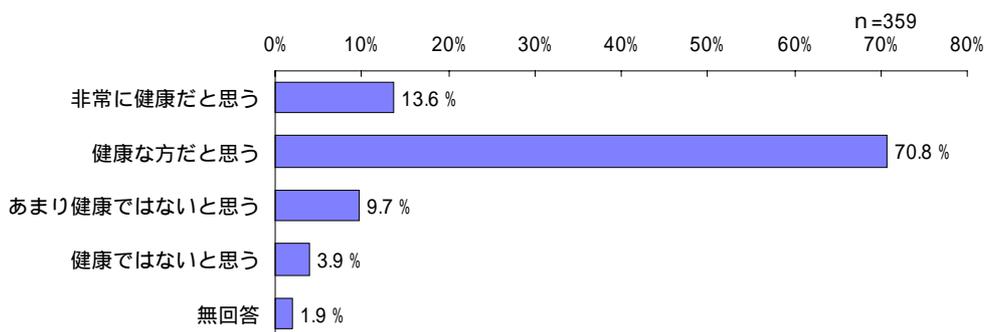
2. 健康や日常の生活状況等について

(1) 現在の健康状態

問1 現在のあなたの健康状態をお聞かせください。(1つに)

健康状態について「非常に健康だと思う」13.6%、「健康な方だと思う」70.8%、合わせた『健康』は84.4%と8割以上が健康であるとしている。「あまり健康ではないと思う」9.7%、「健康ではないと思う」3.9%である。

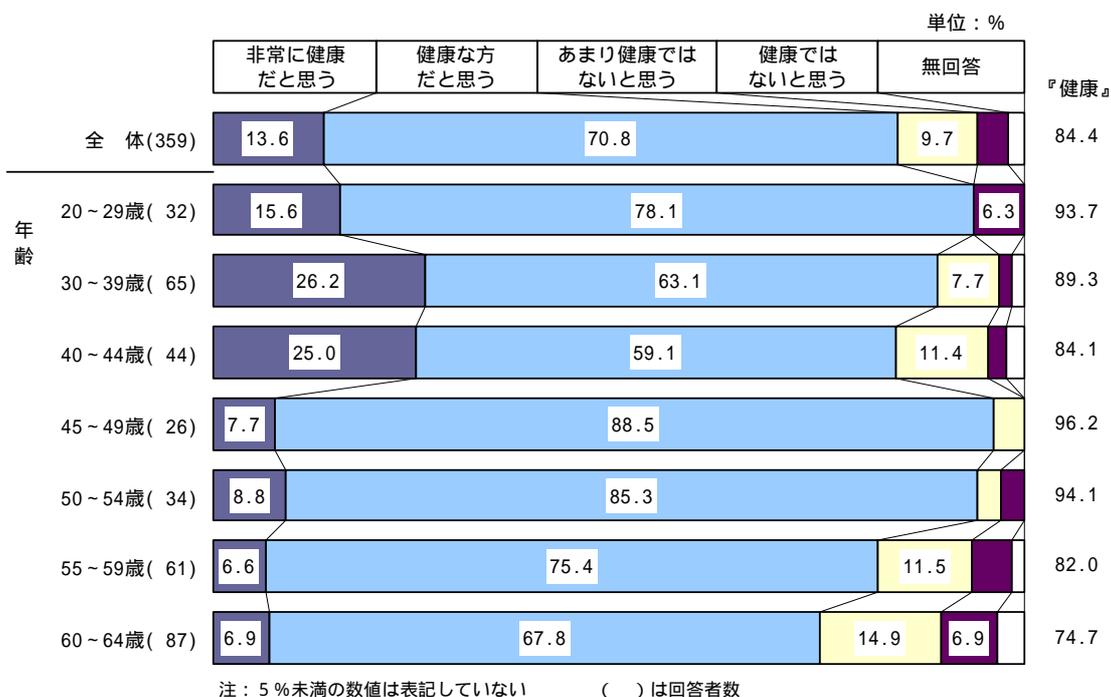
また、「あまり健康ではないと思う」と「健康ではないと思う」とした人にその理由を聞いたが、血圧に関する症状7件、足腰・リウマチ等及び生活習慣病ともに5件など疾病があげられた。



[性別・年齢]

性別では『健康』とする男性は84.3%、女性は85.7%とほとんど差はない。

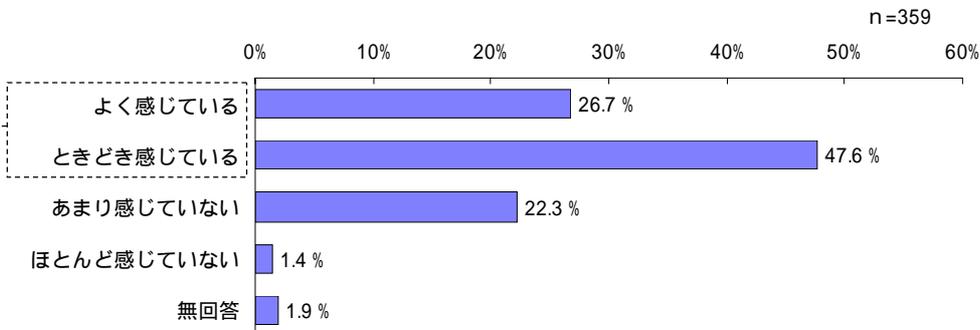
年齢では『健康』は45～49歳が96.2%、50～54歳が94.1%、20～29歳が93.7%と多いのに対し、60～64歳は74.7%、55～59歳は82.0%、40～44歳は84.1%にとどまる。



(2) 日常での生きがい

問2 日常生活を送る中で「こころのハリ」や「生きがい」を感じていますか。(1つに)

日常生活を送る中でこころのハリや生きがいについて、「よく感じている」26.7%、「ときどき感じている」47.6%、合わせた『感じている』は74.3%である。



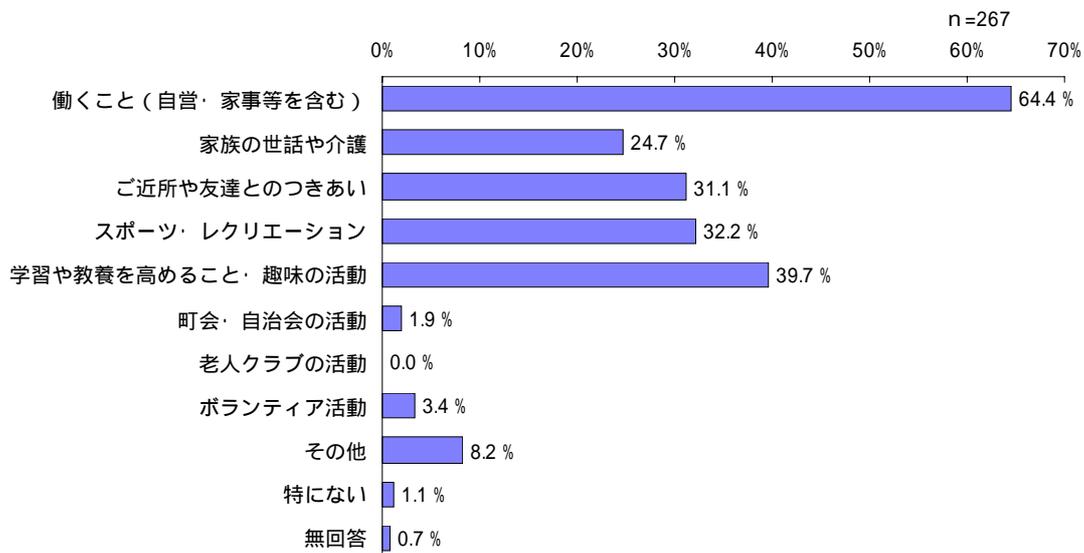
[性別・年齢]

『感じている』は女性の76.4%が男性の70.5%を上回り、年齢では「50～54歳」79.4%、「30～39歳」78.4%、「60～64歳」75.8%などの順であり、「55～59歳」の67.2%が最も少ない。

(3) 生きがいを感じること

問2-1 あなたが、現在こころのハリや生きがいを感じていることは、どんなことですか。(3つまでに)

問2で『感じている』と答えた人にその内容を聞いた。最も多いのが、「働くこと(自営・家事等を含む)」64.4%、「学習や教養を高めること・趣味の活動」39.7%、「スポーツ・レクリエーション」32.2%、「ご近所や友達とのつきあい」31.1%、「家族の世話や介護」24.7%などである。



[性別・年齢]

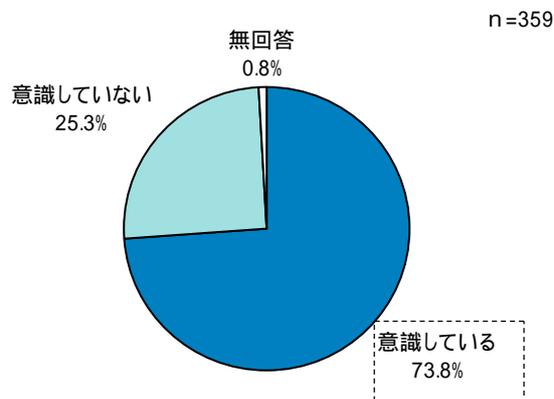
性別、年齢にかかわらず、1位は「働くこと(自営・家事等を含む)」である。中でも「40～44歳」は働き盛りということもあり、83.9%と最も多い。

2位は、男性が「スポーツ・レクリエーション」41.7%に対し、女性は「学習や教養を高めること・趣味の活動」45.8%である。年齢ではこうした項目に加えて、40～44歳では「家族の世話や介護」が35.5%、45～49歳及び50～54歳では「ご近所や友達とのつきあい」各47.4%、40.7%を2位としている。

(4) 健康づくりの意識

問3 普段健康づくりについて意識していますか。(1つに)

健康づくりを「意識している」73.8%、「意識していない」25.3%である。



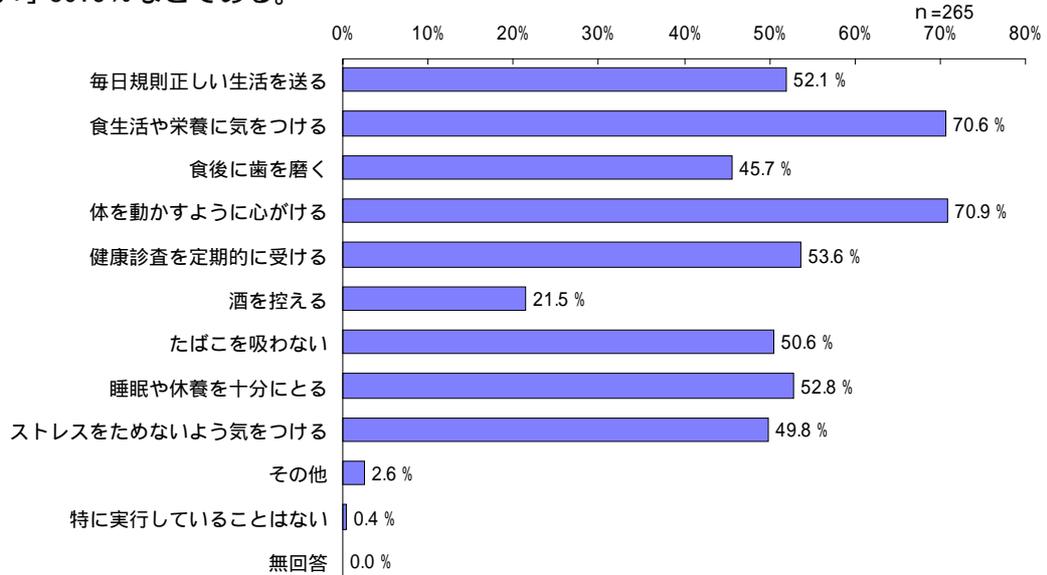
[性別・年齢]

「意識している」は女性77.3%が男性67.8%を上回り、年齢では加齢とともに多くなり、45～49歳で76.9%となり、50～54歳で70.6%とやや少なくなるが、55～59歳78.7%、60～64歳85.1%である。

(5) 実行している健康づくり

問3-1 健康づくりのために実行していることは次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに)

問3で「意識している」と答えた人に実行していることを聞いた。「体を動かすように心がける」70.9%と「食生活や栄養に気をつける」70.6%が多くあげられ、以下「健康診査を定期的に受ける」53.6%、「睡眠や休養を十分にとる」52.8%、「毎日規則正しい生活を送る」52.1%、「たばこを吸わない」50.6%などである。



[性別・年齢]

最も多いのが男性は「体を動かすように心がける」70.7%に対し、女性は「食生活や栄養に気をつける」80.9%である。また、「毎日規則正しい生活を送る」に対しては、女性 58.6%が男性 42.4%を大きく上回る。

年齢で見ると、「体を動かすように心がける」と「食生活や栄養に気をつける」が多くあげられ、次いで「毎日規則正しい生活を送る」や「健康診査を定期的に受ける」などである。

単位: %

	回答者数 (人)	毎日規則正しい生活を送る	食生活や栄養に気をつける	食後に歯を磨く	体を動かすように心がける	健康診査を定期的に受ける	酒を控える	
全体	265	52.1	70.6	45.7	70.9	53.6	21.5	
性別	男性	99	42.4	54.5	28.3	70.7	47.5	21.2
	女性	157	58.6	80.9	58.0	70.1	57.3	21.7
年齢	20～29歳	19	21.1	57.9	52.6	57.9	10.5	5.3
	30～39歳	40	30.0	70.0	42.5	57.5	45.0	12.5
	40～44歳	31	58.1	74.2	45.2	83.9	54.8	19.4
	45～49歳	20	70.0	75.0	55.0	75.0	55.0	20.0
	50～54歳	24	37.5	79.2	33.3	62.5	66.7	33.3
	55～59歳	48	58.3	68.8	45.8	68.8	56.3	29.2
60～64歳	74	66.2	70.3	50.0	77.0	62.2	23.0	

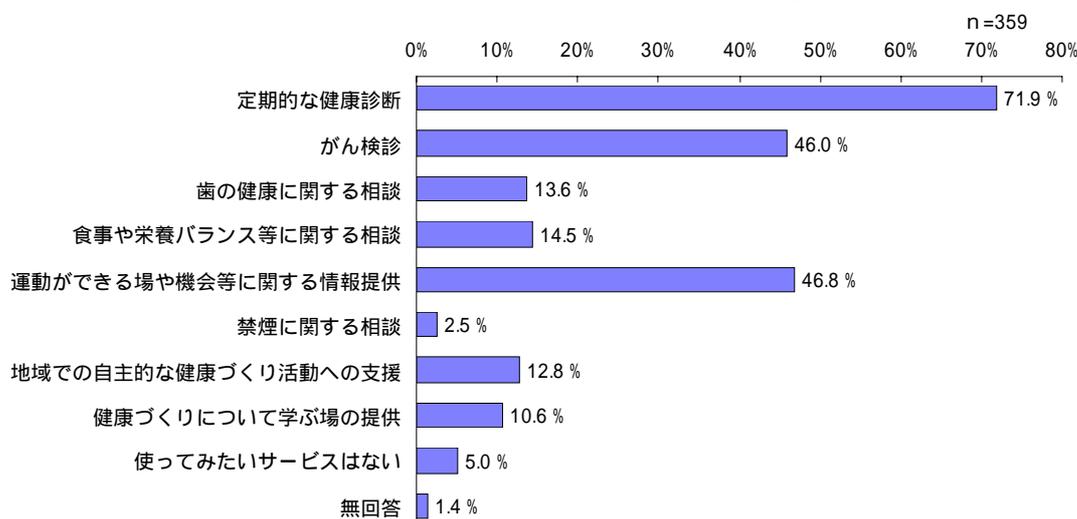
	回答者数 (人)	たばこを吸わない	睡眠や休養を十分にとる	ストレスをためないよう気をつける	その他	特に実行していることはない	無回答	
全体	265	50.6	52.8	49.8	2.6	0.4	0.0	
性別	男性	99	50.5	53.5	43.4	1.0	0.0	0.0
	女性	157	51.0	52.2	54.8	2.5	0.6	0.0
年齢	20～29歳	19	36.8	47.4	42.1	5.3	0.0	0.0
	30～39歳	40	52.5	52.5	42.5	0.0	2.5	0.0
	40～44歳	31	48.4	54.8	48.4	0.0	0.0	0.0
	45～49歳	20	50.0	45.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	50～54歳	24	37.5	33.3	50.0	4.2	0.0	0.0
	55～59歳	48	54.2	52.1	41.7	4.2	0.0	0.0
60～64歳	74	56.8	62.2	66.2	1.4	0.0	0.0	

丸数字は順位

(6) 健康維持に使いたいサービス

問4 今後、健康を維持するためにどのようなサービスを使ってみたいと思っていますか。(3つまでに)

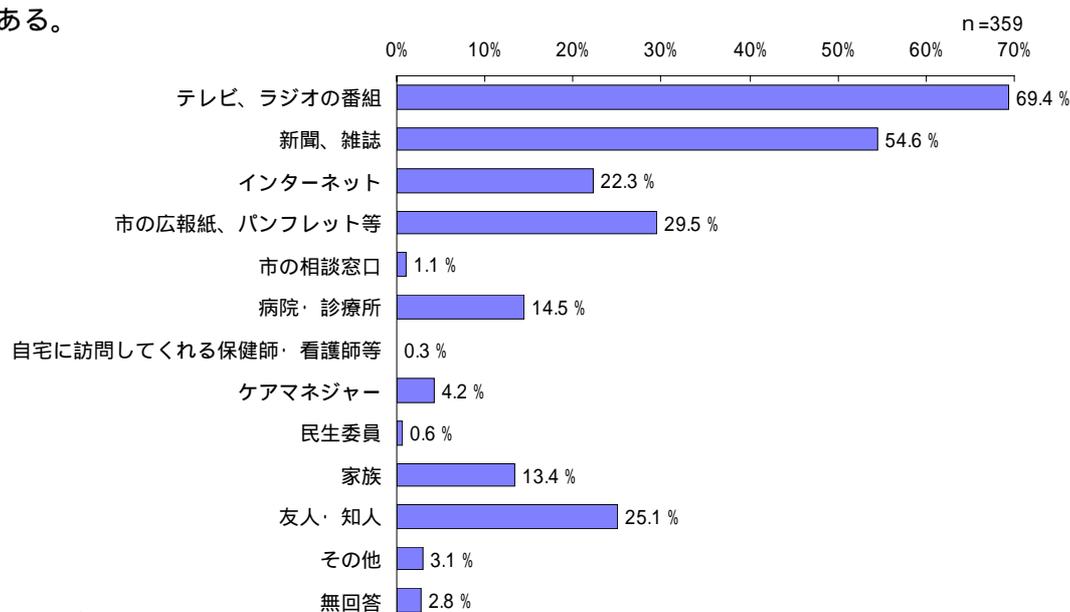
「定期的な健康診断」71.9%が最も多く、「運動ができる場や機会等に関する情報提供」46.8%、「がん検診」46.0%が主なものであり、以下とはやや差がある。



(7) 健康等の情報の入手先

問5 健康維持や介護サービスに関する情報はどこから得ていますか。(3つまでに)

健康や介護サービスに関する情報は、「テレビ、ラジオの番組」69.4%、「新聞、雑誌」54.6%、「市の広報紙、パンフレット等」29.5%、「友人・知人」25.1%、「インターネット」22.3%などである。



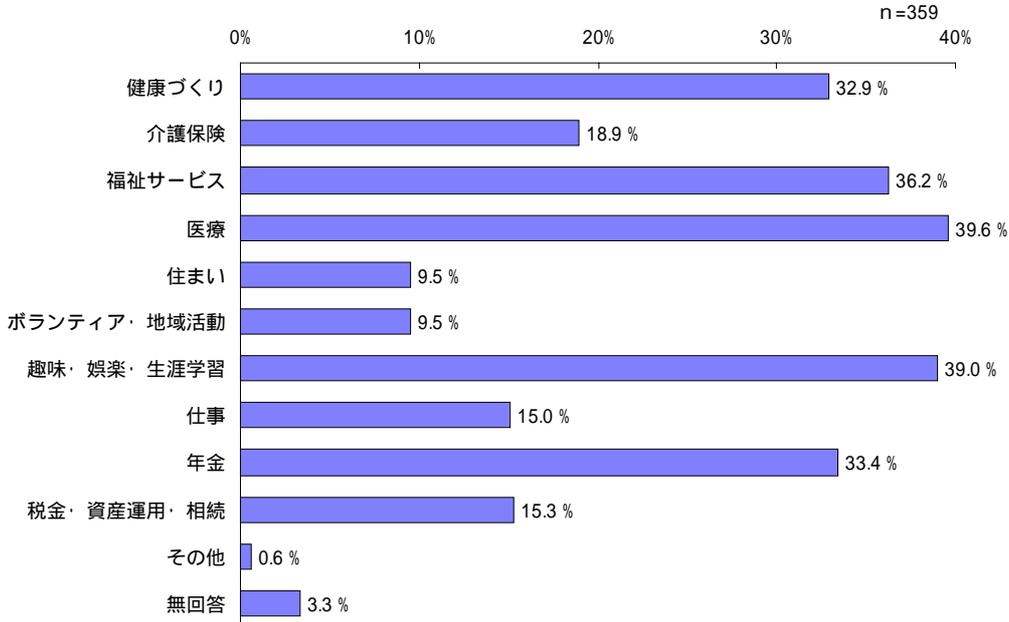
[性別・年齢]

性別・年齢にかかわらず、「テレビ、ラジオの番組」、「新聞、雑誌」が多い。「インターネット」は55歳以上で急に少なくなり、その分「市の広報紙、パンフレット等」が多くなる。

(8) 今後、必要とする情報

問6 今後どんな情報を必要としていますか。(3つまでに)

今後、どんな情報を必要とするかは「医療」39.6%、「趣味・娯楽・生涯学習」39.0%、「福祉サービス」36.2%、「年金」33.4%、「健康づくり」32.9%などである。



[性別・年齢]

最も多い「医療」は、性別、年齢で見ると40～44歳の45.5%のみ1位にあげている。「趣味・娯楽・生涯学習」を1位にあげているのは、男性の41.1%、20～29歳の43.8%、30～39歳の46.2%、45～49歳の53.8%であり、55～59歳及び60～64歳は「福祉サービス」の各47.5%、44.8%である。また、60～64歳は「健康づくり」を同率で1位としている。

単位：%

	回答者数 (人)	健康づくり	介護保険	福祉サービス	医療	住まい	ボランティア・地域活動	
全体	359	32.9	18.9	36.2	39.6	9.5	9.5	
性別	男性	146	33.6	15.1	23.3	38.4	12.3	8.9
	女性	203	31.5	22.7	46.3	39.9	7.4	9.9
年齢	20～29歳	32	28.1	6.3	12.5	25.0	21.9	6.3
	30～39歳	65	24.6	15.4	23.1	43.1	13.8	4.6
	40～44歳	44	31.8	15.9	43.2	45.5	4.5	11.4
	45～49歳	26	23.1	7.7	50.0	50.0	0.0	3.8
	50～54歳	34	29.4	35.3	26.5	29.4	17.6	2.9
	55～59歳	61	31.1	23.0	47.5	36.1	8.2	14.8
	60～64歳	87	44.8	24.1	44.8	41.4	4.6	13.8

	回答者数 (人)	趣味・娯楽・生涯学習	仕事	年金	税金・資産運用・相続	その他	無回答	
全体	359	39.0	15.0	33.4	15.3	0.6	3.3	
性別	男性	146	41.1	19.9	36.3	19.9	0.7	3.4
	女性	203	36.9	11.3	32.5	12.8	0.5	2.5
年齢	20～29歳	32	43.8	31.3	31.3	28.1	0.0	3.1
	30～39歳	65	46.2	15.4	32.3	20.0	0.0	1.5
	40～44歳	44	29.5	13.6	31.8	9.1	2.3	9.1
	45～49歳	26	53.8	19.2	38.5	15.4	0.0	0.0
	50～54歳	34	26.5	17.6	55.9	23.5	2.9	0.0
	55～59歳	61	32.8	11.5	41.0	13.1	0.0	1.6
	60～64歳	87	40.2	9.2	23.0	10.3	0.0	3.4

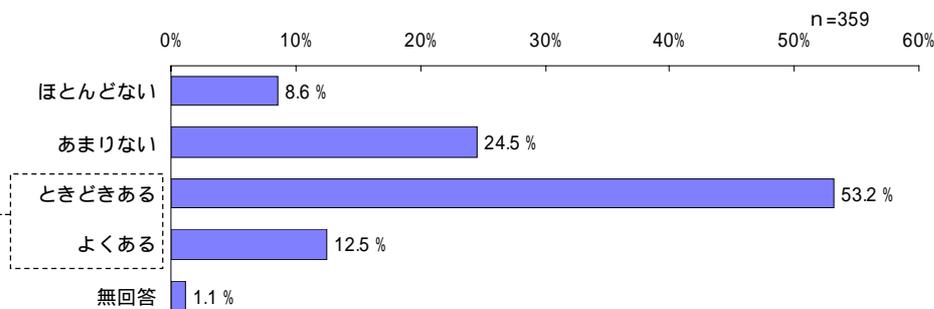
丸数字は順位

(9) 生活での不安・心配

問7 現在、生活の中で不安になったり、心配になったりすることはありますか。
(1つに)

生活の中での不安・心配は、「ときどきある」53.2%、「あまりない」24.5%、「よくある」12.5%、「ほとんどない」8.6%である。

「ときどきある」と「よくある」を合わせた『ある』は65.7%である。



[性別・年齢]

『ある』は男性が69.2%、女性が63.5%である。年齢では50～54歳が82.3%と他の年齢を大きく上回る。最も少ないのは、60～64歳の56.3%である。

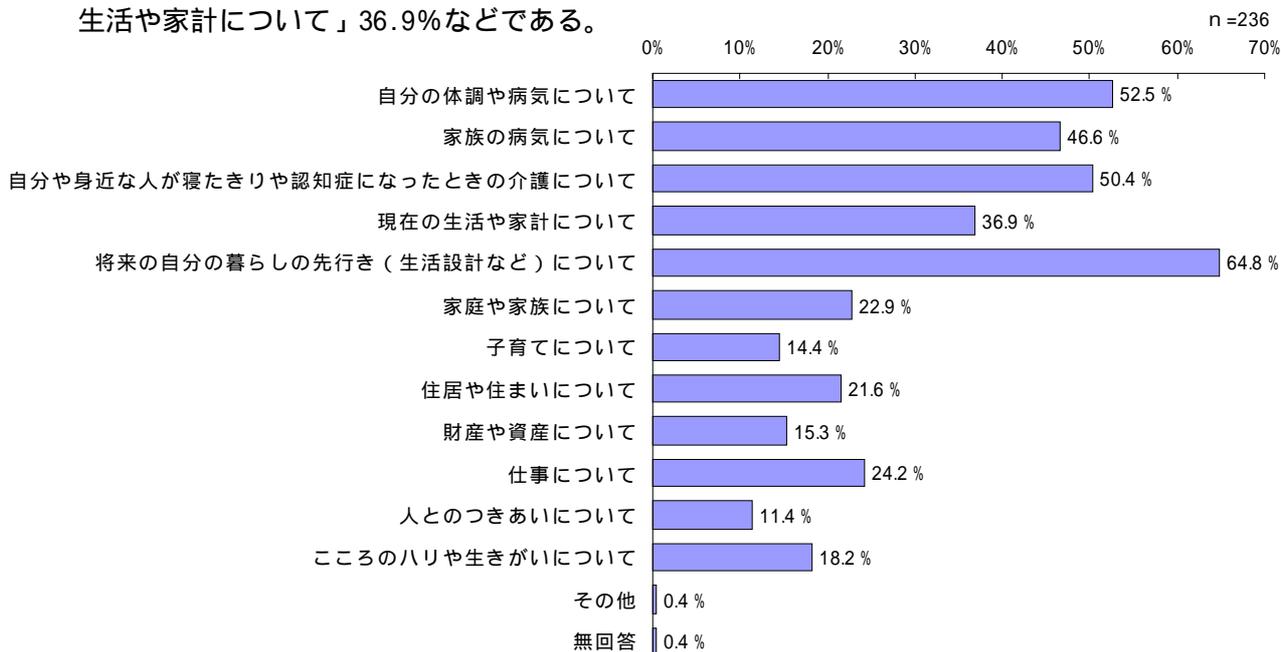
[ひとり暮らし]

『ある』は62.9%である。

(10) 不安・心配の内容

問7-1 次にあげた項目のうち不安になったり、心配になったりするのはどんなことですか。(あてはまるものすべてに)

問7で『ある』と答えた人に、その内容を聞いた。「将来の自分の暮らしの先行き(生活設計など)について」が64.8%、次いで「自分の体調や病気について」52.5%、「自分や身近な人が寝たきりや認知症になったときの介護について」50.4%、「家族の病気について」46.6%、「現在の生活や家計について」36.9%などである。



[性別・年齢]

「将来の自分の暮らしの先行き（生活設計など）について」は男性 70.3%、女性 60.5%、いずれも 1 位である。

年齢では 20～29 歳の 81.8%、30～39 歳の 73.9%、40～44 歳の 56.7%、さらには 55～59 歳の 62.5.%で 1 位としている。これに対し、45～49 歳及び 50～54 歳は、「自分や身近な人が寝たきりや認知症になったときの介護について」が各 73.3%、60.7%と 1 位としている。また、40～44 歳は「将来の自分の暮らしの先行き（生活設計など）について」と同率で 1 位としている。

60～64 歳の 1 位は、「自分の体調や病気について」69.4%である。

単位：%

	回答者数 (人)	自分の 体調や病気 について	家族の 病気につ いて	自分や身近な 人が寝たきりや認知 症になったときの 介護について	現在の 生活や家計 について	将来の自分の 暮らしの先行き (生活設計など) について	家庭や 家族につ いて	子育てに ついて
全 体	236	52.5	46.6	50.4	36.9	64.8	22.9	14.4
性 別	男性	101	57.4	51.5	40.6	39.6	70.3	20.8
	女性	129	46.5	43.4	58.9	34.1	60.5	24.0
年 齢	20～29歳	22	40.9	36.4	27.3	45.5	81.8	36.4
	30～39歳	46	41.3	52.2	54.3	32.6	73.9	13.0
	40～44歳	30	43.3	46.7	56.7	50.0	56.7	16.7
	45～49歳	15	46.7	33.3	73.3	33.3	66.7	20.0
	50～54歳	28	46.4	39.3	60.7	25.0	53.6	17.9
	55～59歳	40	57.5	50.0	40.0	27.5	62.5	22.5
	60～64歳	49	69.4	53.1	51.0	42.9	61.2	32.7

	回答者数 (人)	住居や 住まいに ついて	財産や 資産につ いて	仕事に ついて	人との つきあいに ついて	こころのハリ や生きがいに ついて	その他	無回答
全 体	236	21.6	15.3	24.2	11.4	18.2	0.4	0.4
性 別	男性	101	20.8	16.8	30.7	9.9	11.9	1.0
	女性	129	21.7	14.0	18.6	13.2	24.0	0.0
年 齢	20～29歳	22	31.8	22.7	54.5	36.4	18.2	0.0
	30～39歳	46	21.7	23.9	28.3	13.0	13.0	0.0
	40～44歳	30	20.0	13.3	30.0	16.7	16.7	0.0
	45～49歳	15	6.7	13.3	13.3	0.0	40.0	0.0
	50～54歳	28	17.9	7.1	17.9	0.0	10.7	0.0
	55～59歳	40	15.0	12.5	25.0	15.0	32.5	2.5
	60～64歳	49	28.6	12.2	8.2	4.1	12.2	0.0

丸数字は順位

[同居家族]

夫婦二人暮らし（どちらかが 65 歳以上）を除いては、「将来の自分の暮らしの先行き（生活設計など）について」が最も多く、中でもひとり暮らしは 76.5%と他を大きく上回る。

夫婦二人暮らし（どちらかが 65 歳以上）は、「家族の病気について」87.5%であり、同じ夫婦二人暮らし（二人とも 64 歳以下）の 50.0%とは大きな差がある。

単位：%

	回答者数 (人)	自分の 体調や病気 について	家族の 病気につ いて	自分や身近な 人が寝たきりや認知 症になったときの 介護について	現在の 生活や家計 について	将来の自分の 暮らしの先行き (生活設計など) について	家庭や 家族につ いて	子育てに ついて
同居家族	夫婦二人暮らし (二人とも64歳以下)	50	52.0	50.0	44.0	40.0	66.0	20.0
	夫婦二人暮らし (どちらかが65歳以上)	8	62.5	87.5	50.0	50.0	50.0	0.0
	世帯全員が64歳以下 (夫婦のみ世帯、ひとり暮らしを除く)	82	45.1	39.0	54.9	31.7	67.1	25.6
	ひとり暮らし	17	58.8	41.2	29.4	64.7	76.5	5.9
	上記以外の世帯	71	54.9	52.1	54.9	32.4	60.6	28.2

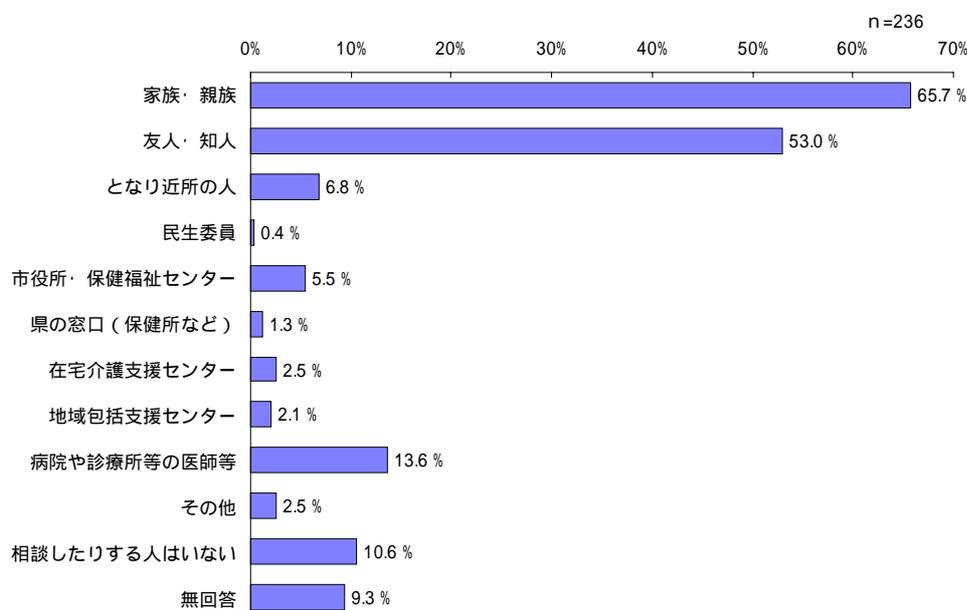
	回答者数 (人)	住居や 住まいに ついて	財産や 資産につ いて	仕事に ついて	人との つきあいに ついて	こころのハリ や生きがいに ついて	その他	無回答
同居家族	夫婦二人暮らし (二人とも64歳以下)	50	26.0	16.0	20.0	8.0	24.0	0.0
	夫婦二人暮らし (どちらかが65歳以上)	8	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	世帯全員が64歳以下 (夫婦のみ世帯、ひとり暮らしを除く)	82	19.5	19.5	23.2	9.8	19.5	0.0
	ひとり暮らし	17	35.3	0.0	29.4	23.5	23.5	0.0
	上記以外の世帯	71	18.3	15.5	26.8	15.5	14.1	1.4

丸数字は順位

(11) 不安・心配の相談相手

問7-2 不安になったり、心配になったりしたとき、だれかに話を聞いてもらったり、相談したりしますか。(あてはまるものすべてに)

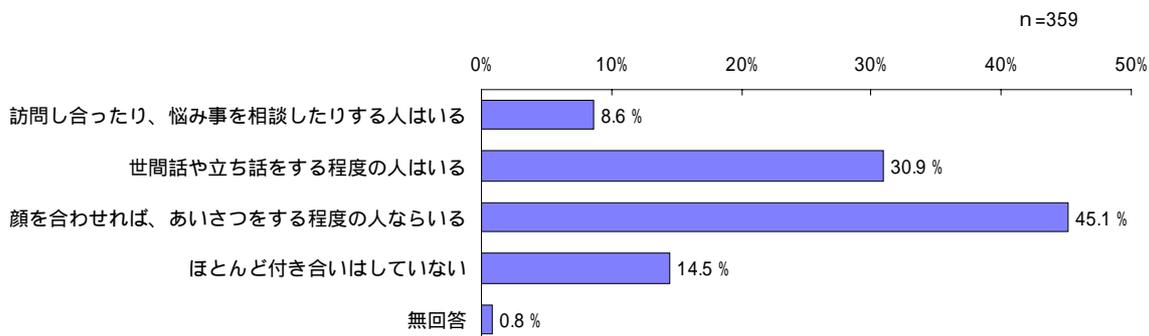
問7-1の内容に引き続き、相談相手を聞いた。「家族・親族」65.7%、「友人・知人」53.0%が主なところであり、以下の「病院や診療所等の医師等」13.6%などとは差がある。



(12) 隣近所との付き合い

問8 あなたは、日頃、隣近所の方とどの程度の付き合いをしていますか。(1つに)

隣近所との付き合いは、「顔を合わせれば、あいさつをする程度の人ならいる」45.1%、「世間話や立ち話をする程度の人はいる」30.9%、「ほとんど付き合いはしていない」14.5%、「訪問し合ったり、悩み事を相談したりする人はいる」8.6%の順である。



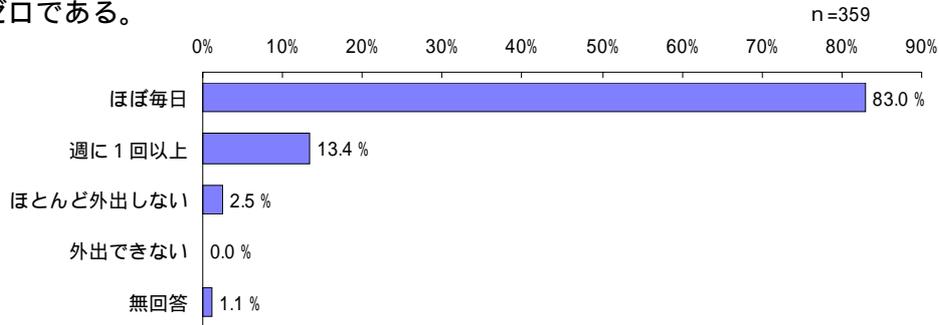
[ひとり暮らし]

ひとり暮らしの「顔を合わせれば、あいさつをする程度の人ならいる」は55.6%、「ほとんど付き合いはしていない」は29.6%といずれも全体を10ポイント以上上回る。

(13) 外出の頻度

問9 日ごろ、どの程度外出していますか。(1つに)

「ほぼ毎日」が83.0%、「週に1回以上」13.4%、「ほとんど外出しない」2.5%、「外出できない」はゼロである。



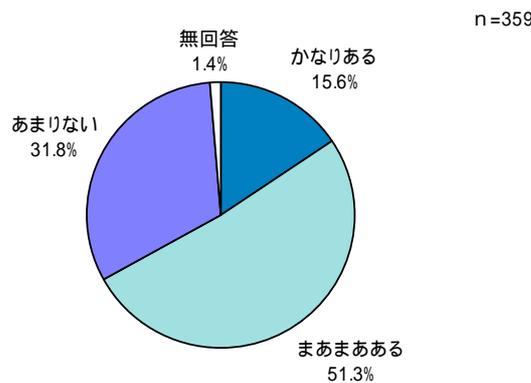
3.暮らし向きや各種活動への参加について

(1) ゆとり

問10 あなたは、自分自身のふだんの生活の中でどの程度ゆとりがあると感じていますか。時間的なゆとりと経済的なゆとりにわけてお答えください。(それぞれあてはまる番号1つに)

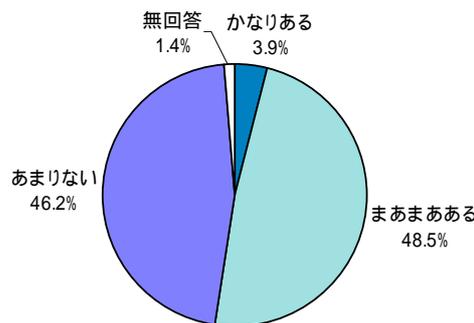
時間的なゆとり

時間的なゆとりは「まあまあある」が51.3%、「あまりない」31.8%、「かなりある」15.6%である。



経済的なゆとり

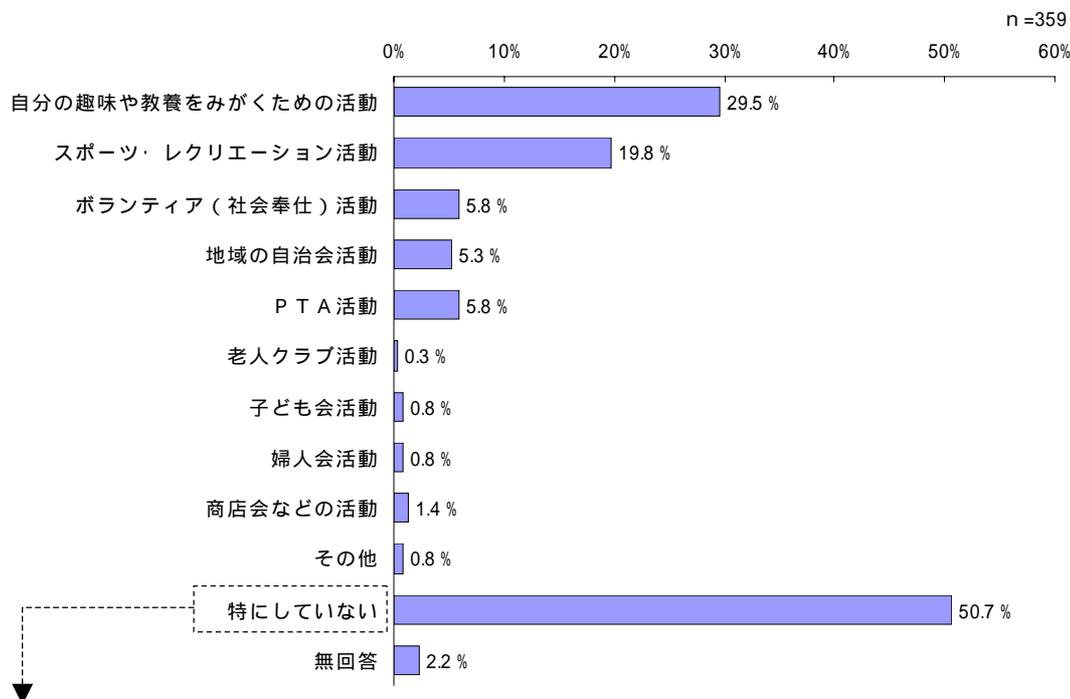
経済的なゆとりは「まあまあある」の48.5%と「あまりない」の46.2%が同程度である。「かなりある」は3.9%と少ない。



(2) 現在、参加している活動

問 11 あなたは、現在、以下のような活動に参加していますか。(は3つまで)

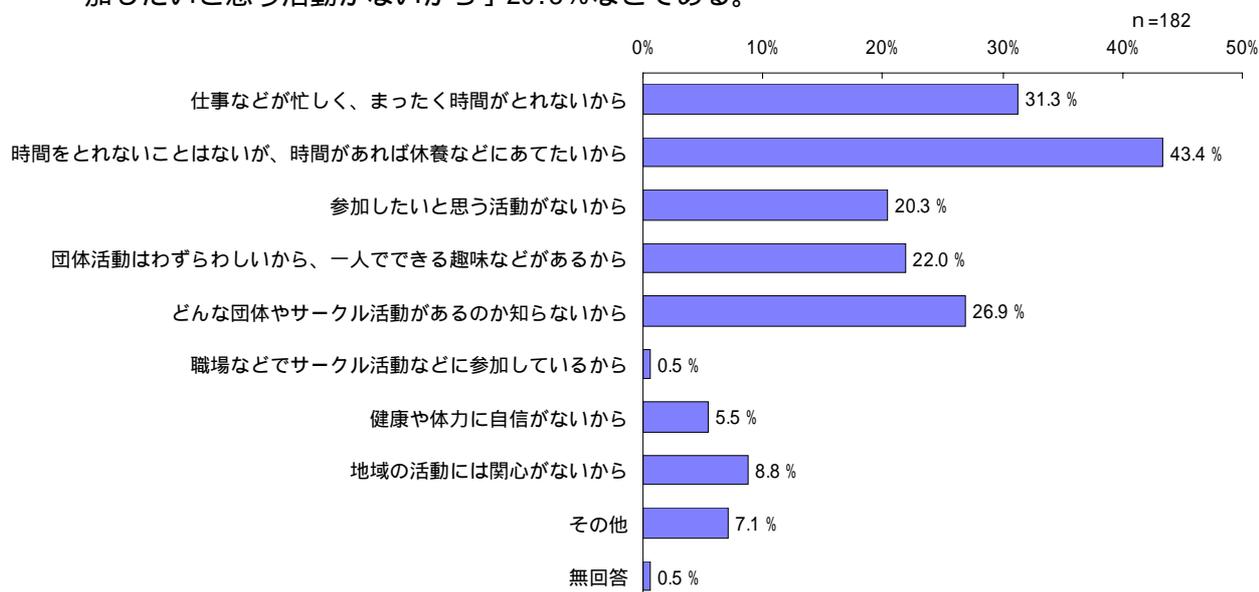
「特にしていない」が半数の50.7%である。参加している活動で多いのは、「自分の趣味や教養をみがくための活動」29.5%と「スポーツ・レクリエーション活動」19.8%である。



(3) 特にしていない理由

問 11- 1 特にしていないのはどのような理由からですか。(あてはまるものすべてに)

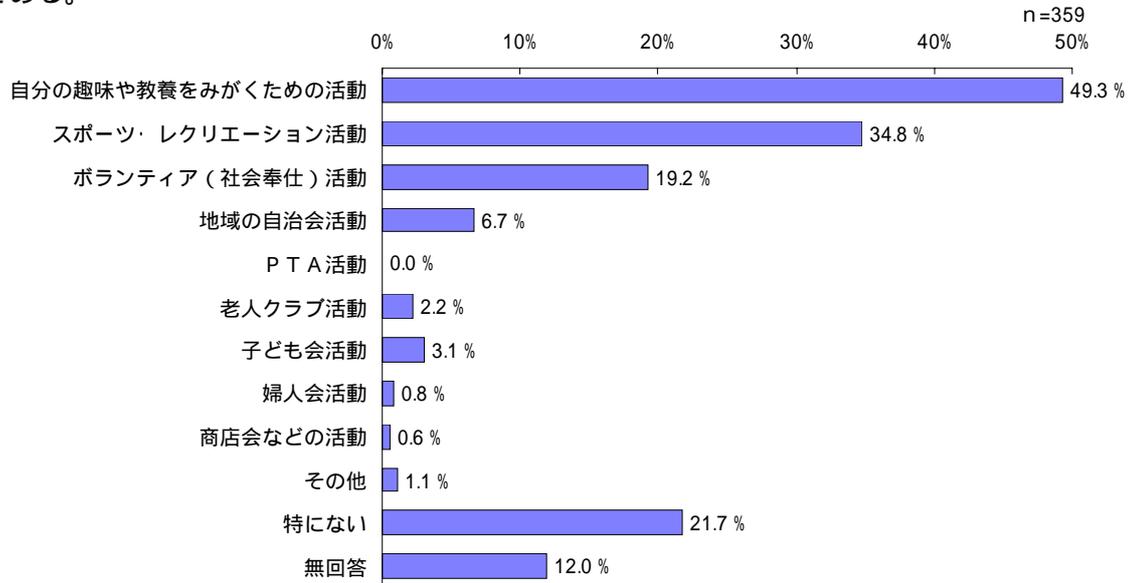
問 11 で「特にしていない」と答えた人にその理由を聞いたものである。最も多いのは「時間をとれないことはないが、時間があれば休養などにあてたいから」43.4%である。以下「仕事などが忙しく、まったく時間がとれないから」31.3%、「どんな団体やサークル活動があるのか知らないから」26.9%、「団体活動はわずらわしいから、一人でできる趣味などがあるから」22.0%、「参加したいと思う活動がないから」20.3%などである。



(4) 今後、参加したいこと

問12 問11のこうした活動の中で、今後参加したいことは何ですか。(あてはまるものすべてに)

今後、参加したいことは、「自分の趣味や教養をみがくための活動」49.3%、「スポーツ・レクリエーション活動」34.8%、「特にない」21.7%、「ボランティア(社会奉仕)活動」19.2%などである。

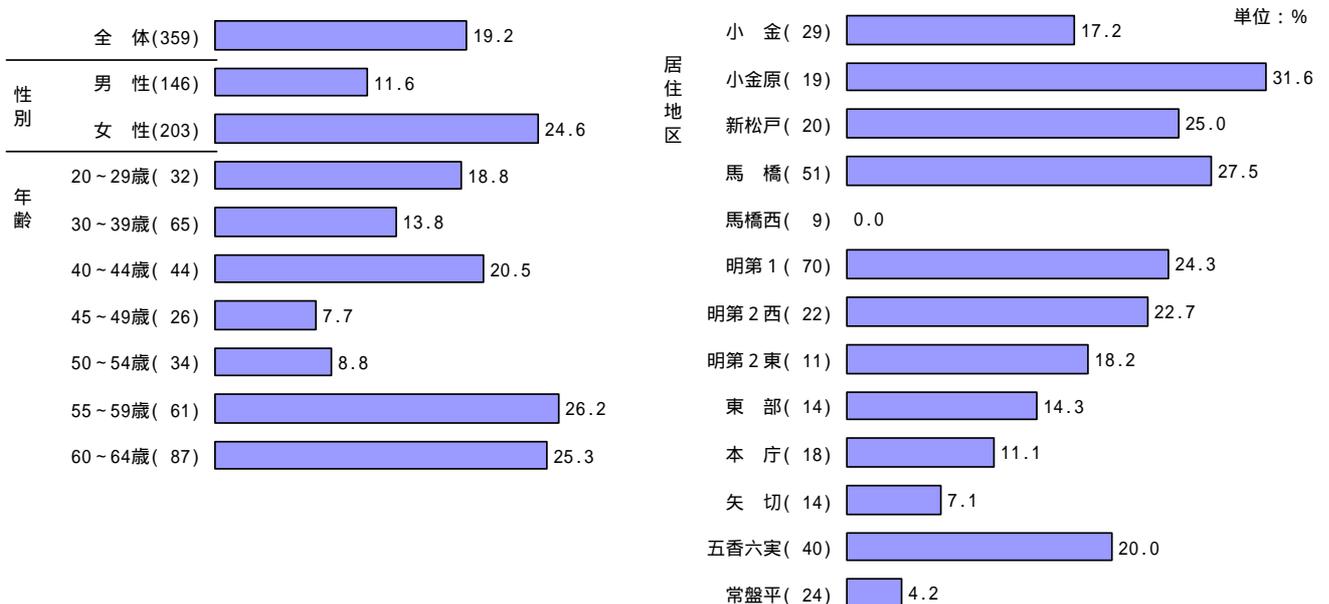


[性別・年齢・居住地区]

「ボランティア活動」は、性別では女性の24.6%が男性11.6%を上回る。年齢では55~59歳26.2%、60~64歳25.3%、40~44歳20.5%、20~29歳18.8%などの順である。

居住地区は、小金原31.6%、馬橋27.5%、新松戸25.0%、明第124.3%、明第2西22.7%などの順である。

< ボランティア活動への参加意向 >



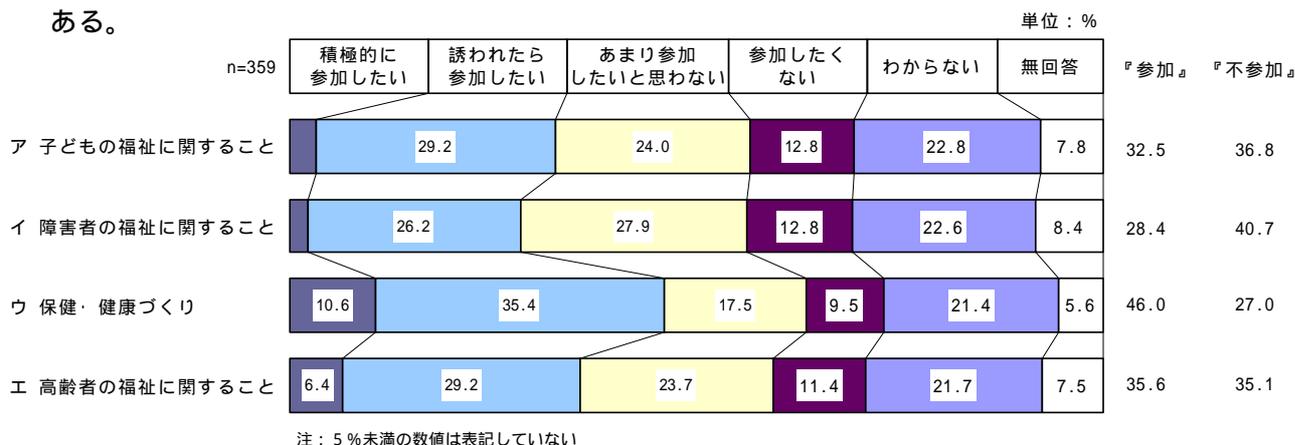
()は回答者数

(5) ボランティア活動

問 13 あなたは、以下のようなボランティア活動に参加してみたいと思いますか。
(それぞれあてはまる番号1つに)

どのようなボランティア活動に参加したいかについては、「積極的に参加したい」が最も多いのは「保健・健康づくり」の10.6%、次いで「高齢者の福祉に関すること」6.4%などである。「誘われたら参加したい」を合わせた『参加したい』についても、「保健・健康づくり」46.0%、「高齢者の福祉に関すること」35.6%などの順である。

これに対し、「あまり参加したいと思わない」と「参加したくない」を合わせた『参加したくない』は、「障害者の福祉に関すること」40.7%、「子どもの福祉に関すること」36.8%などの順である。



[性別・年齢・居住地区]

20～29歳を除いては、性別、年齢にかかわらず、「保健・健康づくり」が最も多い。居住地区においても、小金原及び東部、常盤平を除いては、「保健・健康づくり」である。小金原及び東部は「子どもの福祉」、常盤平は「高齢者の福祉」が最も多い。

単位：%

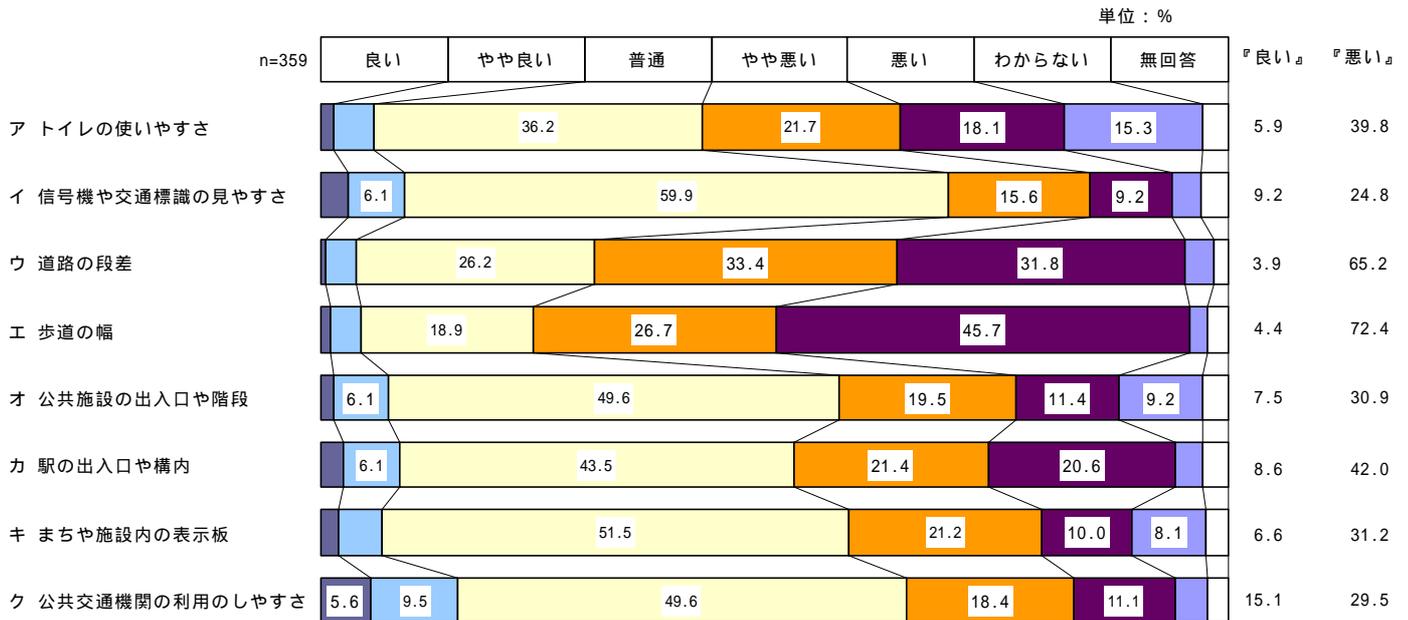
性別・年齢・地区別にみる『参加したい』		回答者数 (人)	子どもの福祉に 関すること	障害者の福祉に 関すること	保健・健康づくり	高齢者の福祉に 関すること
全体		359	32.5	28.4	46.0	35.6
性別	男性	146	23.3	22.6	43.8	28.1
	女性	203	38.9	32.6	48.3	41.4
年齢	20～29歳	32	50.1	31.2	43.8	31.3
	30～39歳	65	32.3	24.6	35.4	27.7
	40～44歳	44	29.5	31.8	34.0	34.1
	45～49歳	26	34.6	26.9	53.8	34.6
	50～54歳	34	26.4	20.6	41.2	26.4
	55～59歳	61	27.8	27.8	52.5	39.3
	60～64歳	87	32.2	32.1	57.4	45.9
居住地区	小金	29	37.9	27.5	55.1	41.3
	小金原	19	52.7	31.6	42.1	42.1
	新松戸	20	30.0	30.0	30.0	25.0
	馬橋	51	33.3	31.4	45.1	31.4
	馬橋西	9	66.7	33.3	77.8	55.6
	明第1	70	27.1	24.3	50.0	30.0
	明第2西	22	40.9	36.4	45.5	45.4
	明第2東	11	45.5	36.4	54.5	36.4
	東部	14	42.8	28.6	35.7	35.7
	本庁	18	16.7	22.2	33.4	27.8
	矢切	14	35.7	35.7	50.0	28.5
	五香六実	40	22.5	30.0	60.0	52.5
	常盤平	24	29.2	25.0	25.0	33.4

(6) 安心して暮らせるまちづくり

問14 誰もが地域で安心して暮らしていけるまちづくりという観点から見て、あなたは、市内の状況をどう評価されますか。(それぞれあてはまる番号1つに)

市内の状況評価は、「良い」と「やや良い」を合わせた『良い』はいずれも少なく、「公共交通機関の利用のしやすさ」15.1%、「信号機や交通標識の見やすさ」9.2%、「駅の出入口や構内」8.6%などである。

これに対し「やや悪い」と「悪い」を合わせた『悪い』は、「歩道の幅」72.4%、「道路の段差」65.2%が特に多い。次いで「駅の出入口や構内」42.0%、「トイレの使いやすさ」39.8%などである。



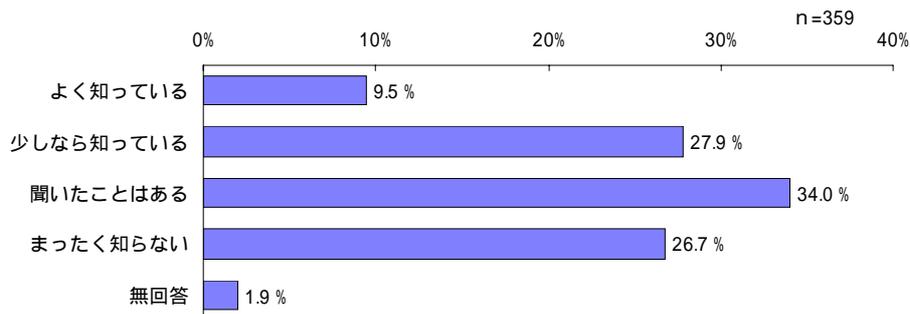
注：5%未満の数値は表記していない

4 . 介護予防について

(1) 介護予防事業

問 15 「介護予防」には、足などの筋力をつけること、栄養の改善をすること、口腔機能を向上させること、認知症の予防などがあります。このことについて、あなたは知っていますか。(1 つに)

介護予防事業について「よく知っている」は9.5%、「少しなら知っている」は27.9%、最も多いのが「聞いたことはある」34.0%、「まったく知らない」は26.7%である。



[性別・年齢]

「よく知っている」は、女性の13.3%が男性4.3%を大きく上回る。

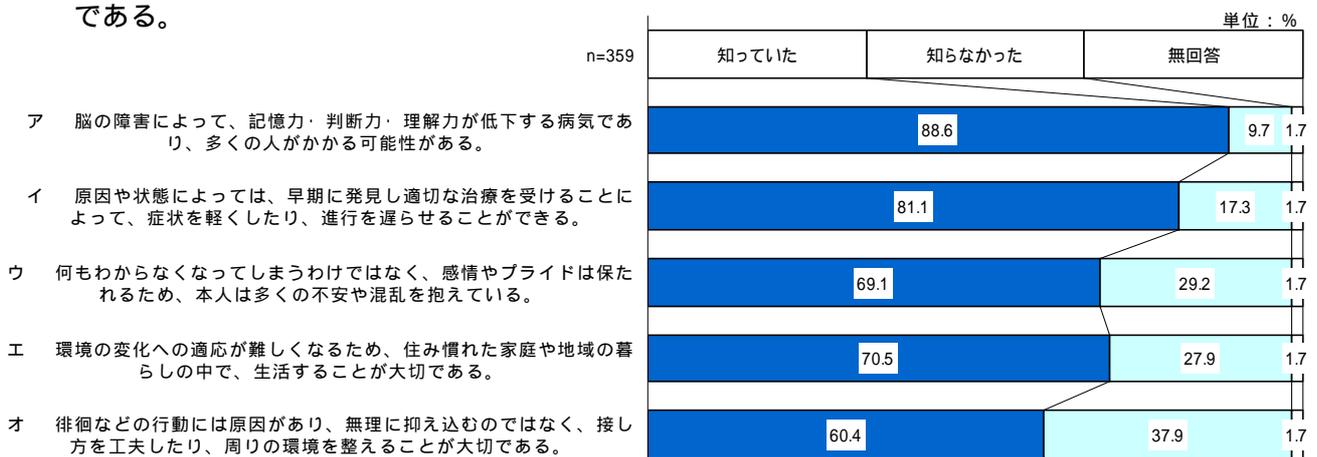
年齢では、「よく知っている」は60～64歳17.2%、45～49歳11.5%などの順であり、30～39歳の4.6%が最も少ない。

「まったく知らない」は20～29歳34.4%と30～39歳の43.1%を下回るのを除き、30～39歳以降、加齢とともに少なくなる。

(2) 認知症について

問 16 認知症は、多くの人がかかる可能性のある病気で、認知症の方やご家族を支える地域づくりが重要な課題となっていますが、あなたは、認知症に関する以下の内容を知っていますか。(それぞれあてはまる番号1つに)

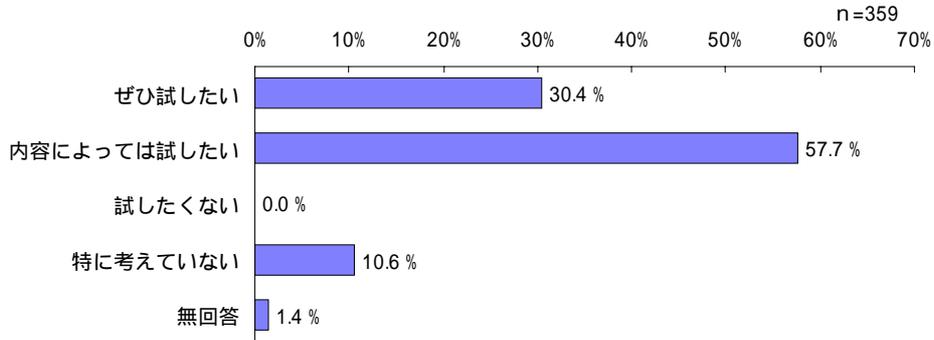
認知症については、いずれの内容も「知っていた」が6割を超え、最も多いのが「脳の障害によって記憶力・判断力・理解力が低下する病気であり、多くの人がかかる可能性がある。」88.6%である。



(3) 認知症予防について

問 17 認知症の予防には、運動や食事など、生活習慣の改善をはじめとした予防法が考えられていますが、その予防法に効果があるとしたら、あなたは試してみたいと思いますか。(1つに)

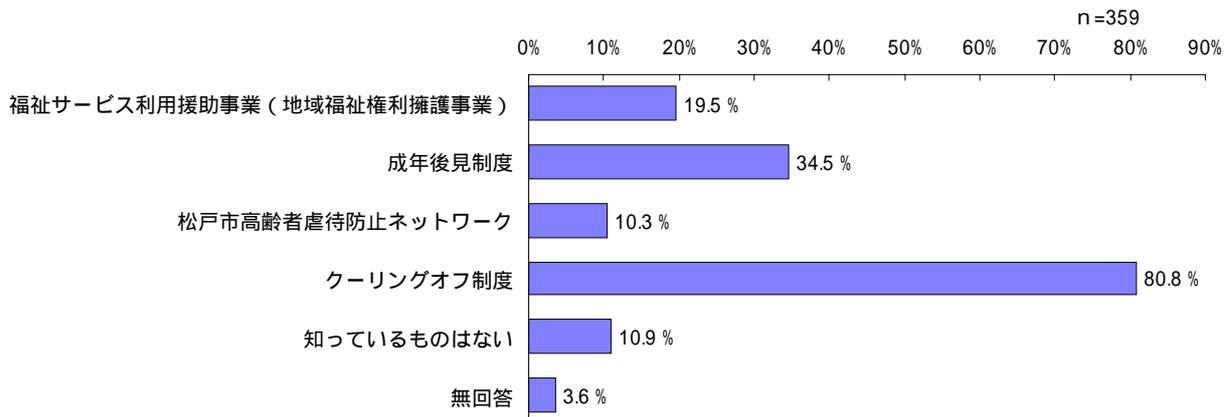
認知症予防の効果があれば「ぜひ試したい」は30.4%、「内容によっては試したい」57.7%、合わせた『試したい』は88.1%、9割近い。



(4) 権利擁護の制度やしきみ

問 18 高齢者が安心して暮らせるための権利擁護の制度やしきみを知っていますか。(あてはまるものすべてに)

権利擁護の制度やしきみで知っていることは「クーリングオフ制度」80.8%が最も多い。以下はやや差があり、「成年後見制度」34.5%、「福祉サービス利用援助事業(地域福祉権利擁護事業)」19.5%などである。「知っているものはない」は10.9%と少ない。

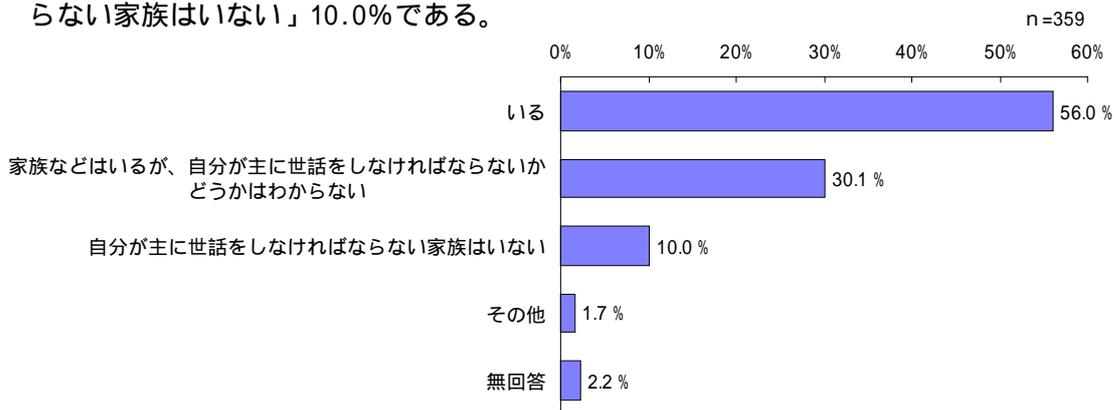


5 . 介護をする立場になったときのことについて

(1) 世話をすべき家族

問 19 現在または将来、主にあなたが老後の世話をしなければならないと思っている家族などはいますか。(1 つに)

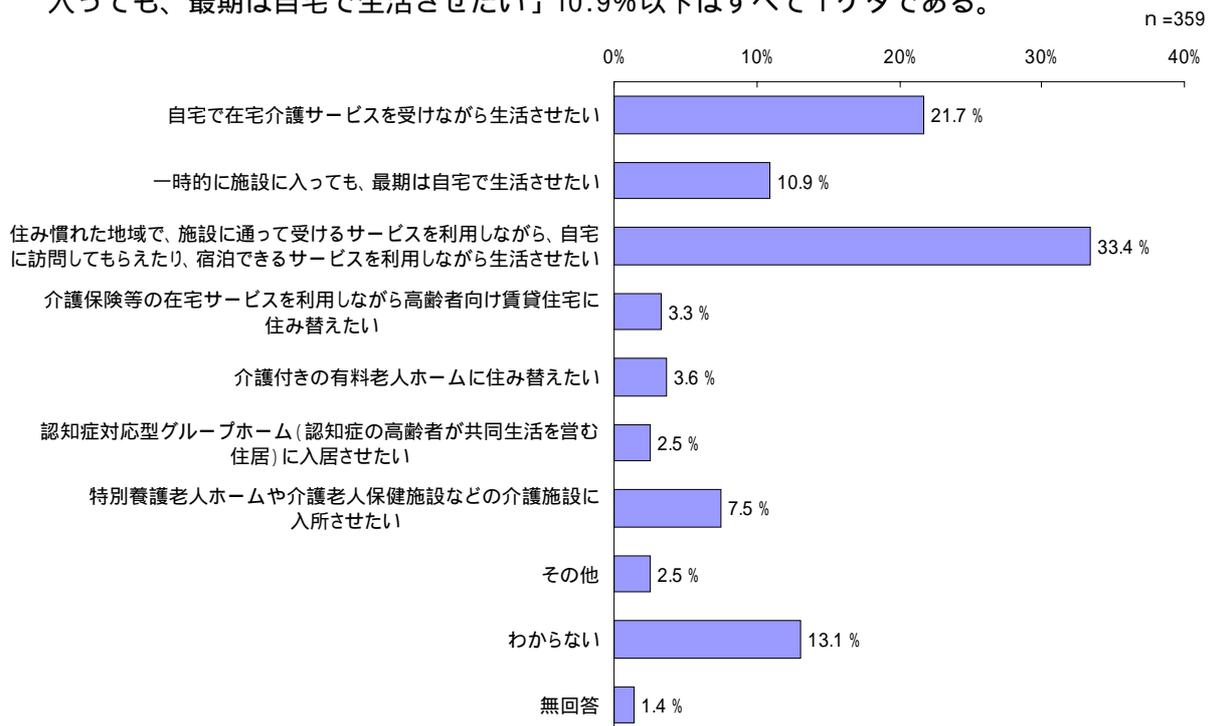
老後の世話をしなければならない家族が「いる」は 56.0%である。「家族などはいるが、自分が主に世話をしなければならないかどうかはわからない」30.1%、「自分が主に世話をしなければならない家族はいない」10.0%である。



(2) 家族介護時の生活場所

問 20 あなたは、かりに、家族が高齢などのために身の回りのことを自分で十分にできなくなったとき、どこで生活をさせたいですか。(1 つに)

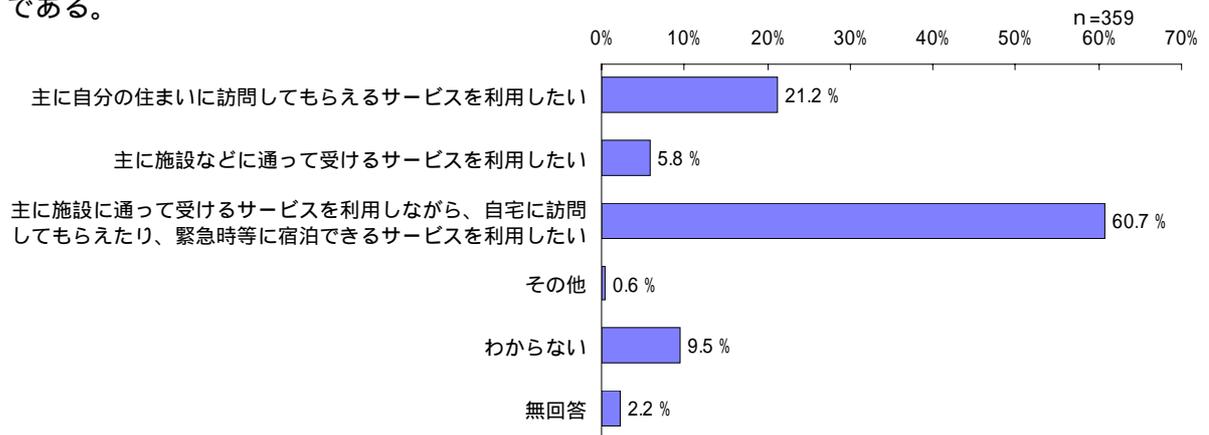
家族介護時の生活場所は、「住み慣れた地域で、施設に通って受けるサービスを利用しながら、自宅に訪問してもらえたり、宿泊できるサービスを利用しながら生活させたい」33.4%、「自宅で在宅介護サービスを受けながら生活させたい」21.7%、「わからない」13.1%、「一時的に施設に入っても、最期は自宅で生活させたい」10.9%以下はすべて 1 ケタである。



(3) 家族のために利用したい介護サービス

問21 かりに、自分の住まいで家族のために介護サービスを利用する場合、主にどのような種類のサービスを利用したいですか。(1つに)

「主に施設に通って受けるサービスを利用しながら、自宅に訪問してもらえたり、緊急時等に宿泊できるサービスを利用したい」が60.7%、6割である。「主に自分の住まいに訪問してもらえるサービスを利用したい」21.2%、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」5.8%である。



[性別・年齢]

性別・年齢にかかわらず、「主に施設に通って受けるサービスを利用したい」が最も多く、中でも女性の67.5%、年齢では50～54歳の70.6%、55～59歳の70.5%をあげることができる。

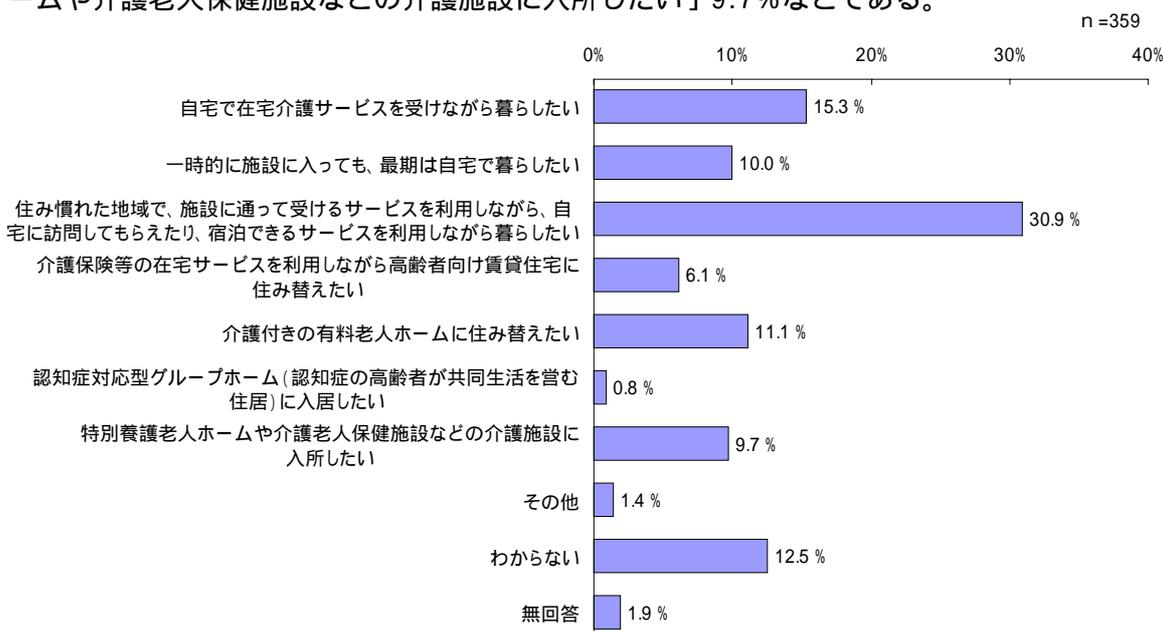
そのため、これらの属性は「主に自分の住まいに訪問してもらえるサービスを利用したい」は、女性は15.8%、50～54歳は11.8%、55～59歳は16.4%と他よりも少ない。

6 . 介護を受ける立場になったときのことについて

(1) 介護必要時の生活場所

問 22 あなたは、かりに、身の回りのことを自分でできなくなったとき、どこで生活したいと思いますか。(1 つに)

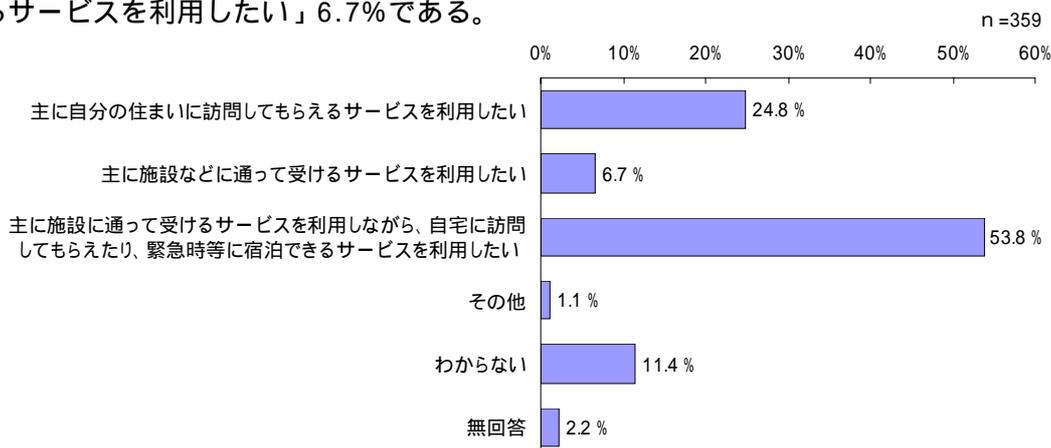
「住み慣れた地域で、施設に通って受けるサービスを利用しながら、自宅に訪問してもらえたり、宿泊できるサービスを利用しながら暮らしたい」が 30.9%、「自宅で在宅介護サービスを受けながら暮らしたい」が 15.3%、「わからない」12.5%、「介護付きの有料老人ホームに住み替えたい」11.1%、「一時的に施設に入っても、最期は自宅で暮らしたい」10.0%、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設などの介護施設に入所したい」9.7%などである。



(2) 利用したい介護サービス

問 23 かりに、自分の住まいで介護サービスを受ける場合、主にどのような種類のサービスを利用したいですか。(1 つに)

「主に施設に通って受けるサービスを利用しながら、自宅に訪問してもらえたり、緊急時等に宿泊できるサービスを利用したい」が 53.8%、半数を超える。次いで「主に自分の住まいに訪問してもらえるサービスを利用したい」24.8%、「わからない」11.4%、「主に施設などに通って受けるサービスを利用したい」6.7%である。

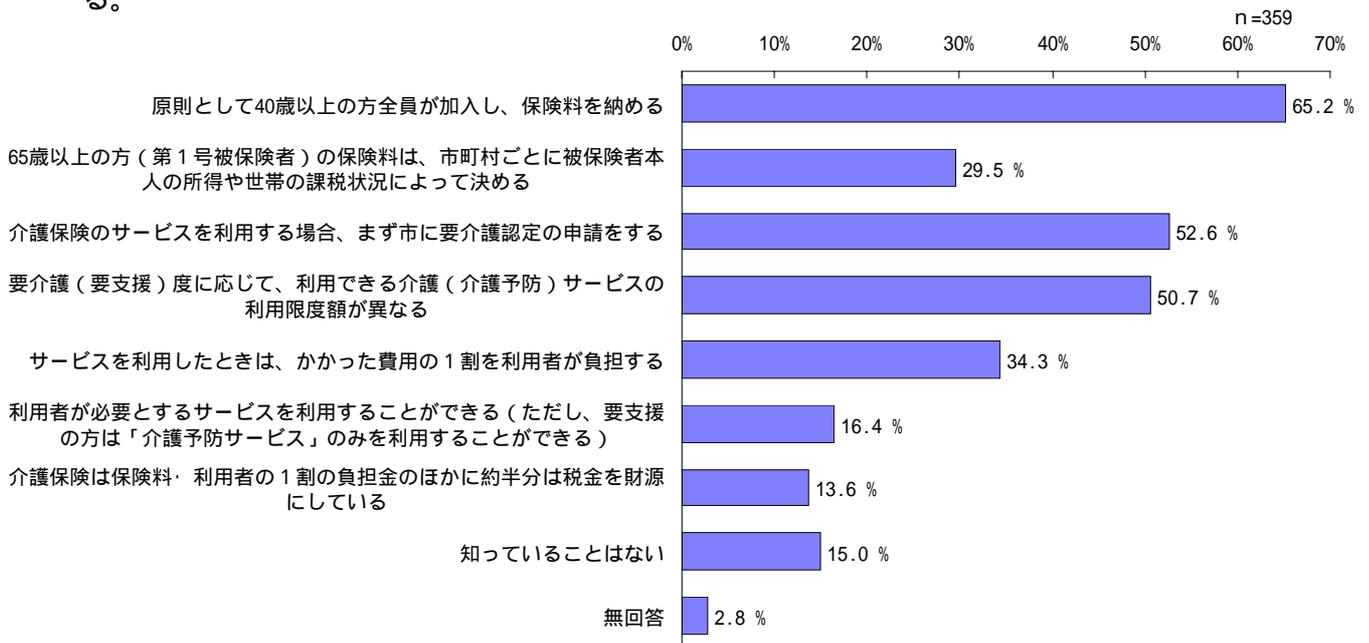


7. 介護保険について

(1) 介護保険制度について

問 24 介護保険制度についてどの程度知っていますか。(あてはまるものすべてに)

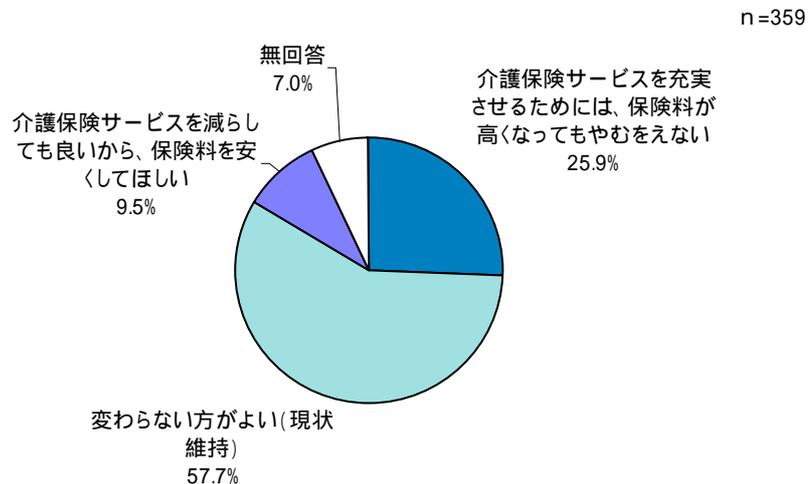
介護保険制度について知っていることは、「原則として40歳以上の方全員が加入し、保険料を納める」65.2%、「介護保険のサービスを利用する場合、まず市に要介護認定の申請をする」52.6%、「要介護（要支援）度に応じて、利用できる介護（介護予防）サービスの利用限度額が異なる」50.7%、「サービスを利用したときは、かかった費用の1割を利用者が負担する」34.3%などである。



(2) 介護保険料の今後

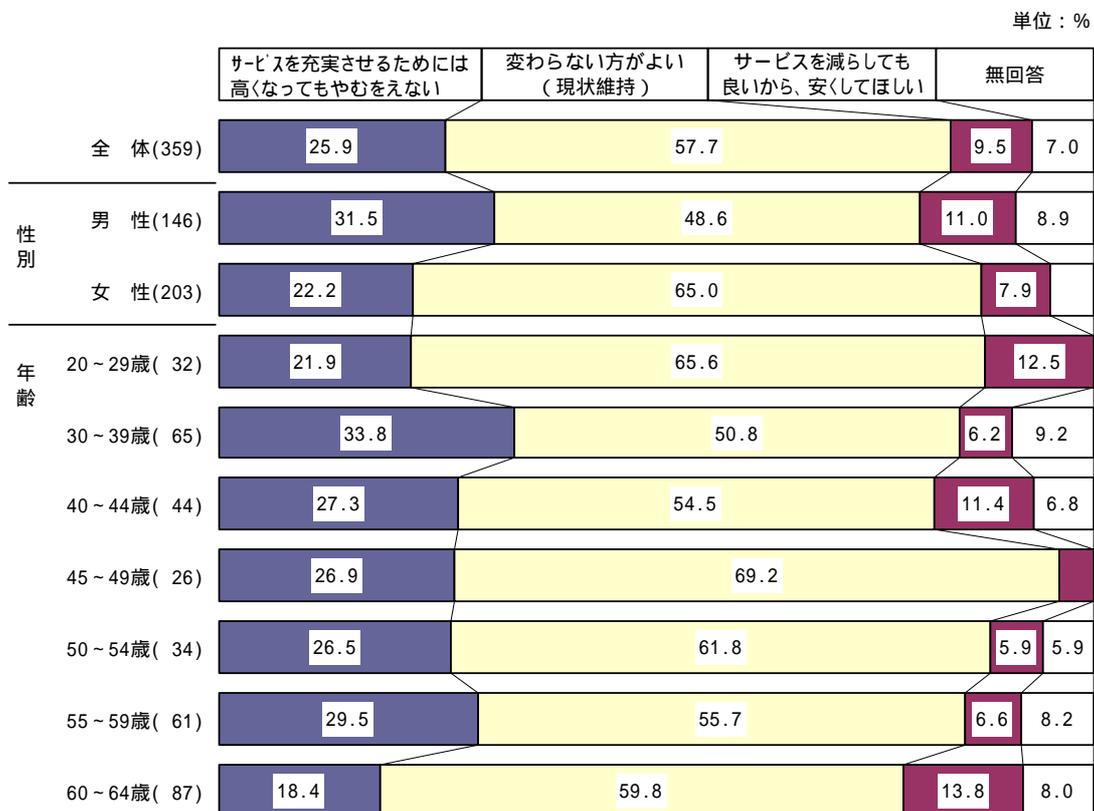
問 25 あなたは、介護保険サービスと介護保険料の負担について、次の3つの方針から、あえて1つ選ぶとしたら、どれを選びますか。(1つに)

「変わらないほうがよい(現状維持)」が57.7%、約6割である。「介護保険サービスを充実させるためには、保険料が高くなってもやむをえない」25.9%、「介護保険サービスを減らしても良いから、保険料を安くしてほしい」9.5%である。



[性別・年齢]

性別・年齢にかかわらず、「変わらないほうがよい(現状維持)」が最も多く、中でも男性48.6%よりは女性65.0%、年齢では45~49歳の69.2%、20~29歳の65.6%などをあげることができる。

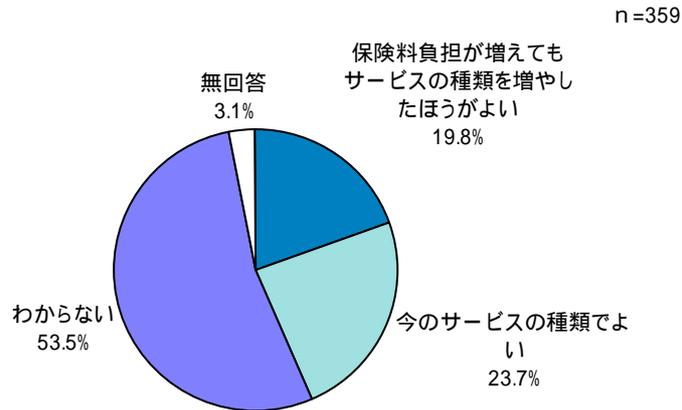


注：5%未満の数値は表記していない ()は回答者数

(3) サービスの種類と保険料負担

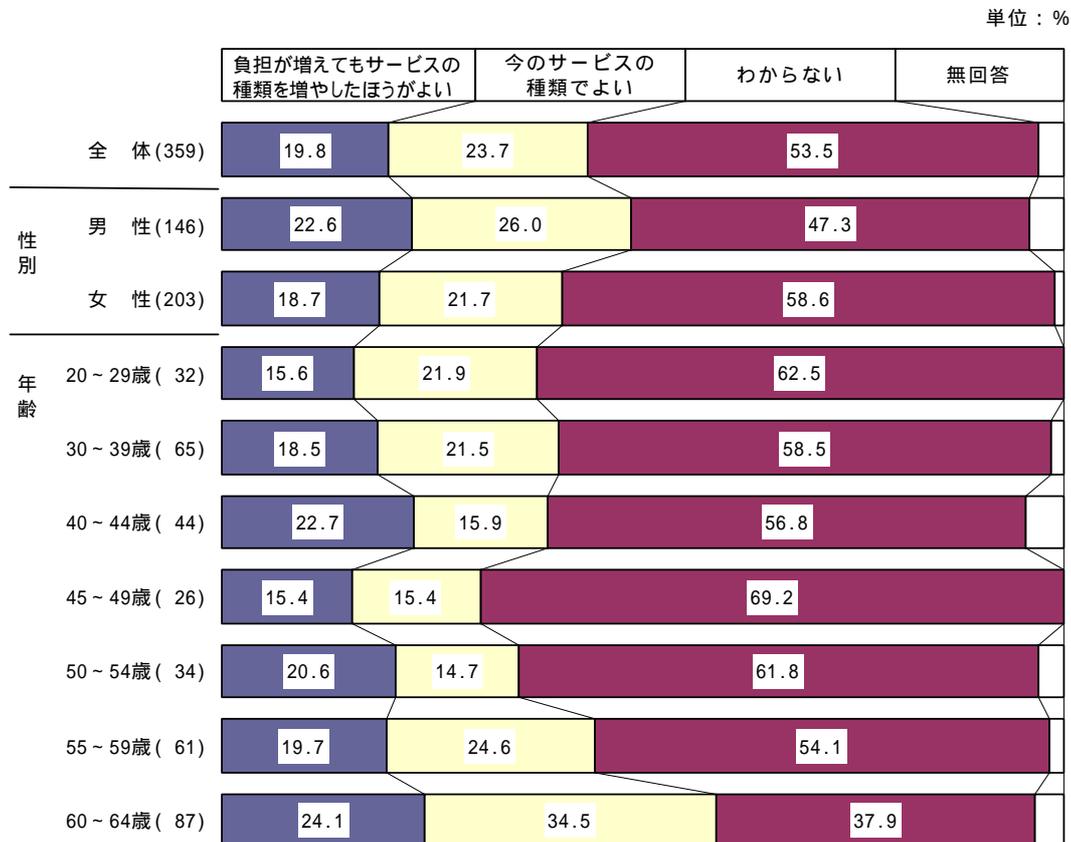
問26 介護保険制度では、保険給付の対象となるサービスの種類が定められていますが、各市町村ごとに新たなサービスの種類を増やすことができます。この場合、65歳以上の方の保険料負担が増えることとなりますが、このことについてどう思いますか。(1つに)

「わからない」53.5%。「今のサービスの種類でよい」23.7%、「保険料負担が増えてもサービスの種類を増やしたほうがよい」19.8%である。



[性別・年齢]

40～44歳のみ「今のサービスの種類でよい」15.9%を「保険料負担が増えてもサービスの種類を増やしたほうがよい」22.7%が上回る。



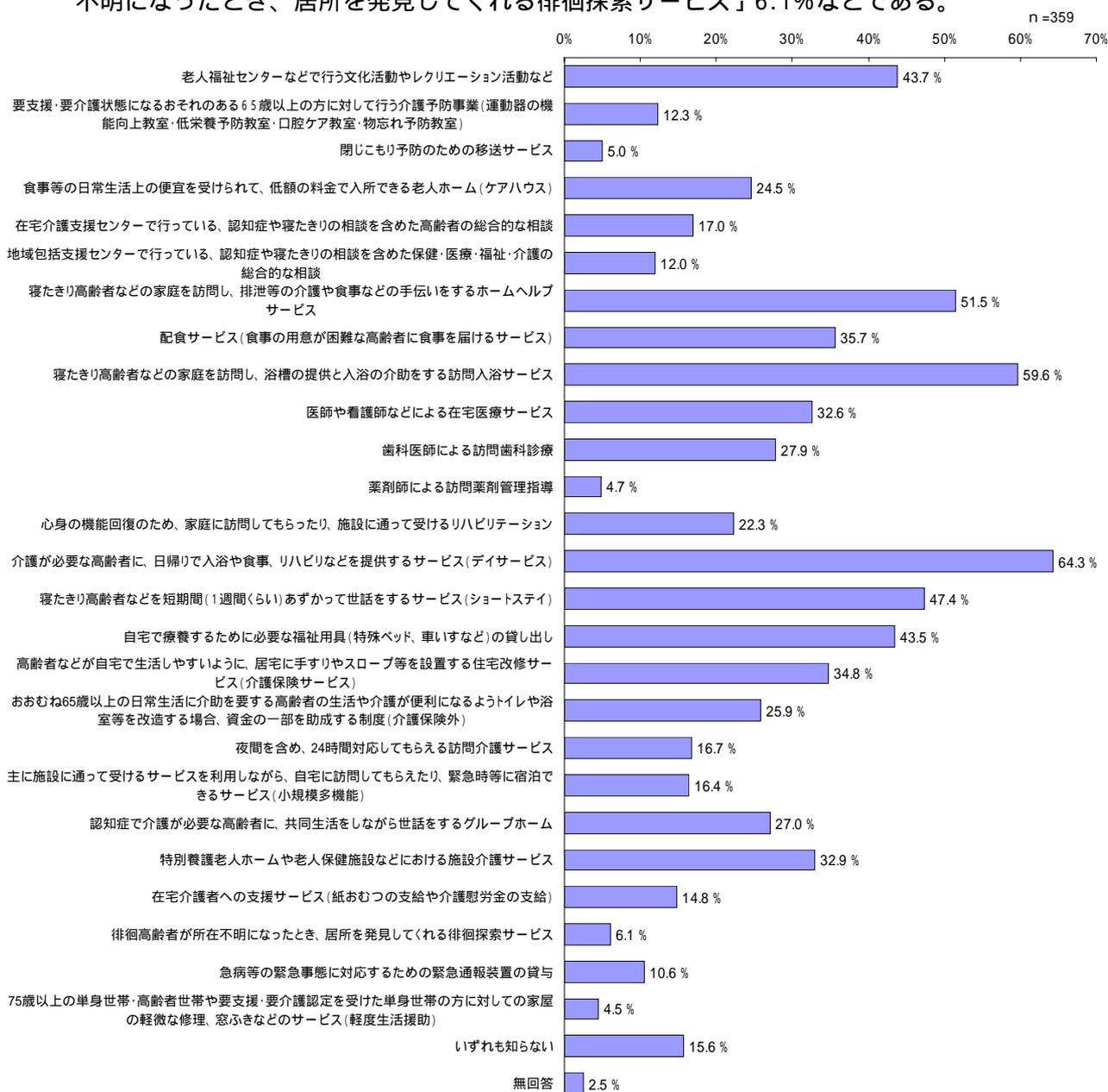
注：5%未満の数値は表記していない ()は回答者数

(4) 保健・医療・福祉サービス

問 27 あなたは次のような保健・医療・福祉サービスを知っていますか。(あてはまるものすべてに)

最も多いのが「介護が必要な高齢者に、日帰りで入浴や食事、リハビリなどを提供するサービス(デイサービス)」64.3%、次いで「寝たきり高齢者などの家庭を訪問し、浴槽の提供と入浴の介助をする訪問入浴サービス」59.6%、「寝たきり高齢者などの家庭を訪問し、排泄等の介護や食事などの手伝いをするホームヘルプサービス」51.5%、「寝たきり高齢者などを短期間(1週間くらい)あずかって世話をするサービス(ショートステイ)」47.4%、「老人福祉センターなどで行う文化活動やレクリエーション活動など」43.7%、「自宅で療養するために必要な福祉用具(特殊ベッド、車いすなど)の貸し出し」43.5%などである。

逆に少ないのは、「75歳以上の単身世帯・高齢者世帯や要支援・要介護認定を受けた単身世帯の方に対しての家屋の軽微な修理、窓ふきなどのサービス(軽度生活援助)」4.5%、「薬剤師による訪問薬剤管理指導」4.7%、「閉じこもり予防のための移送サービス」5.0%、「徘徊高齢者が所在不明になったとき、居所を発見してくれる徘徊探索サービス」6.1%などである。



[性別・年齢]

性別で見ると「デイサービス」をはじめとした上位5位までは、いずれも女性が男性を大きく上回る。

年齢で見ると「デイサービス」及び「訪問入浴サービス」「ホームヘルプサービス」「ショートステイ」いずれも全体を上回るのは45歳以上である。ただし「訪問入浴サービス」は60～64歳のみ全体を下回る。

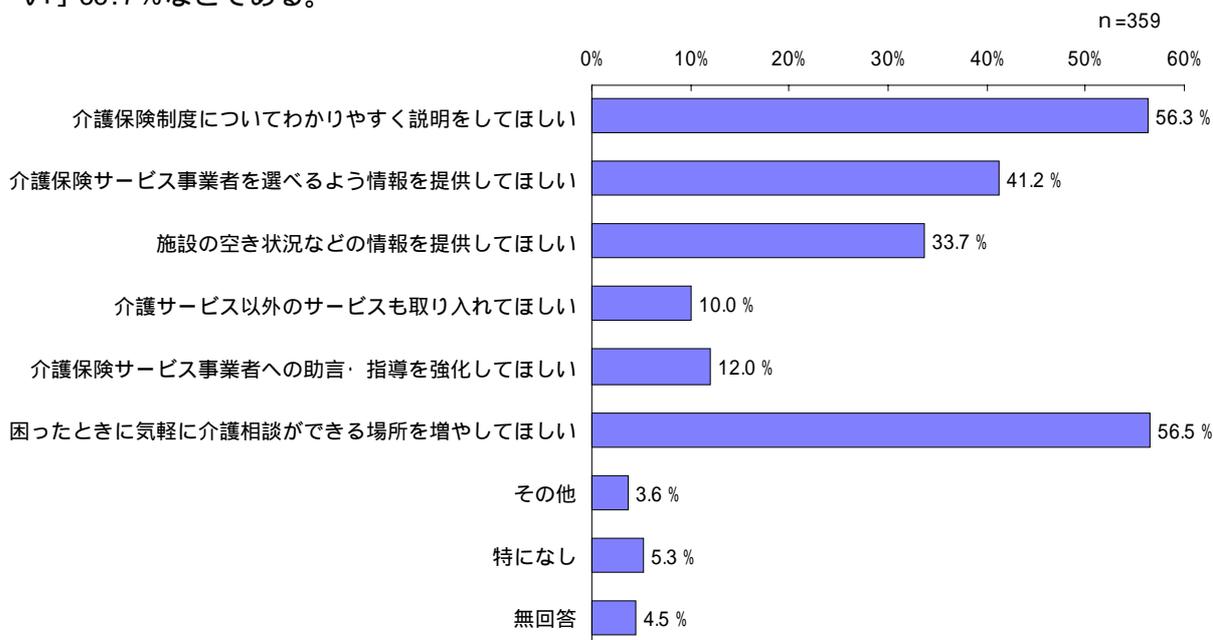
単位：%

		回答者数 (人)	デイサービス	訪問入浴 サービス	ホームヘルプ サービス	ショートステイ	文化活動や レクリエーション活動
全 体		359	64.3	59.6	51.5	47.4	43.7
性 別	男 性	146	56.2	50.7	44.5	34.9	36.3
	女 性	203	70.9	68.5	58.6	57.1	48.3
年 齢	20～29歳	32	50.0	50.0	46.9	37.5	43.8
	30～39歳	65	46.2	52.3	46.2	29.2	40.0
	40～44歳	44	56.8	52.3	43.2	31.8	47.7
	45～49歳	26	76.9	76.9	65.4	53.8	50.0
	50～54歳	34	76.5	70.6	55.9	52.9	23.5
	55～59歳	61	78.7	75.4	60.7	68.9	59.0
	60～64歳	87	70.1	57.5	54.0	55.2	37.9

(5) 市に期待すること

問 28 今後の介護保険サービスについて、市に期待することは何ですか。(3つまでに)

「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やしてほしい」56.5%と「介護保険制度についてわかりやすく説明をしてほしい」56.3%を多くの人があげている。以下、「介護保険サービス事業者を選べるよう情報を提供してほしい」41.2%、「施設の空き状況などの情報を提供してほしい」33.7%などである。



[性別・年齢]

「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やしてほしい」は、45～49歳のみ上位にない。45～49歳は、「介護保険制度についてわかりやすく説明をしてほしい」、「介護保険事業者を選べるよう情報を提供してほしい」、「施設の空き状況などの情報を提供してほしい」など、介護者を抱える人が多いためか、より具体的な項目が上位である。

単位：%

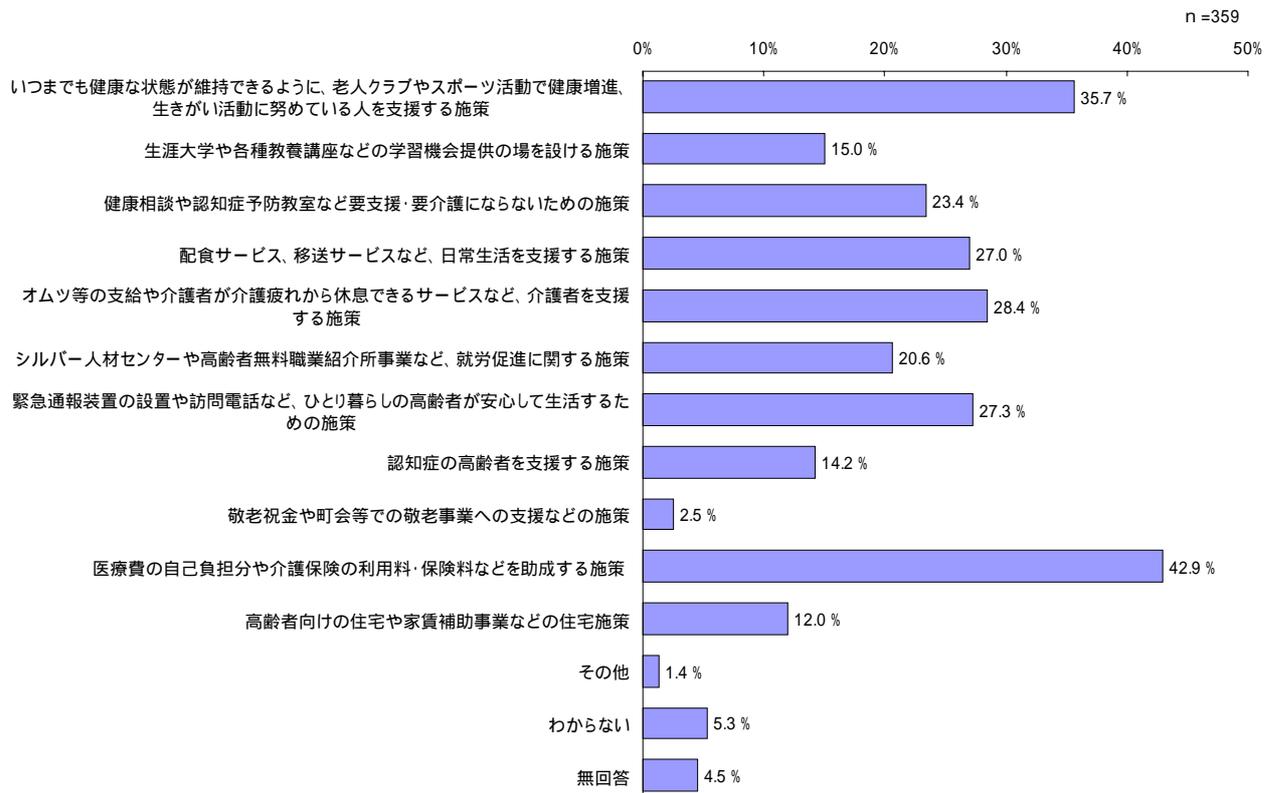
	回答者数 (人)	介護保険制度 について わかりやすく 説明をして ほしい	介護保険サ ービス事 業者を選 べるよう 情報を提供 してほしい	施設の空き 状況などの 情報を提供 してほしい	介護サ ービス 以外のサ ービスも 取り入れ てほしい	介護保険サ ービス事 業者へ の助言・指 導を強化 してほしい	困ったとき に気軽に 介護相談 ができる 場所を増 やしてほ しい	その他	特になし	無回答
全 体	359	56.3	41.2	33.7	10.0	12.0	56.5	3.6	5.3	4.5
性 別										
男性	146	53.4	33.6	29.5	11.6	11.6	53.4	5.5	6.8	4.1
女性	203	59.1	46.8	37.9	9.4	12.3	58.1	2.5	4.4	3.9
年 齢										
20～29歳	32	65.6	9.4	25.0	6.3	6.3	40.6	3.1	15.6	3.1
30～39歳	65	58.5	26.2	24.6	15.4	12.3	66.2	6.2	3.1	1.5
40～44歳	44	56.8	34.1	29.5	18.2	6.8	45.5	9.1	9.1	2.3
45～49歳	26	65.4	65.4	53.8	3.8	7.7	46.2	0.0	11.5	0.0
50～54歳	34	55.9	52.9	26.5	8.8	17.6	55.9	2.9	2.9	5.9
55～59歳	61	44.3	49.2	39.3	9.8	11.5	67.2	1.6	4.9	4.9
60～64歳	87	58.6	50.6	41.4	6.9	16.1	55.2	2.3	1.1	6.9

丸数字は順位

(6) 充実すべき高齢者施策

問 29 あなたは、今後介護保険以外の施策で、どのような高齢者施策を充実すべきだと思いますか。(3つまでに)

介護保険以外の施策では、「医療費の自己負担分や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策」42.9%が最も多い。次いで「いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策」35.7%、「オムツ等の支給や介護者が介護疲れから休息できるサービスなど、介護者を支援する施策」28.4%、「緊急通報装置の設置や訪問電話など、ひとり暮らしの高齢者が安心して生活するための施策」27.3%、「健康相談や認知症予防教室など要支援・要介護にならないための施策」23.4%などである。



[性別・年齢]

「医療費の自己負担分や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策」は、男女とも1位にあげられているとともに、年齢においては30～39歳及び40～44歳、50～54歳、55～59歳でも1位である。それ以外の年齢の1位は、20～29歳および60～64歳は「いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策」、45～49歳は「オムツ等の支給や介護者が介護疲れから休息できるサービスなど、介護者を支援する施策」となっている。また、40～44歳のみ「認知症の高齢者を支援する施策」を上位にあげている。

単位：%

	回答者数 (人)	いつまでも健康な状態が維持できるように、老人クラブやスポーツ活動で健康増進、生きがい活動に努めている人を支援する施策	生涯大学や各種教養講座などの学習機会提供の場を設ける施策	健康相談や認知症予防教室など要支援・要介護にならないための施策	配食サービス、移送サービスなど、日常生活を支援する施策	オムツ等の支給や介護者が介護疲れから休息できるサービスなど、介護者を支援する施策	シルバー人材センターや高齢者無料職業紹介所事業など、就労促進に関する施策	緊急通報装置の設置や訪問電話など、ひとり暮らしの高齢者が安心して生活するための施策	
全 体	359	35.7	15.0	23.4	27.0	28.4	20.6	27.3	
性別	男性	146	39.0	17.8	25.3	21.9	23.3	23.3	21.9
	女性	203	33.0	12.8	22.2	31.5	32.5	18.2	31.5
年齢	20～29歳	32	50.0	15.6	25.0	21.9	21.9	18.8	25.0
	30～39歳	65	40.0	16.9	26.2	27.7	26.2	23.1	36.9
	40～44歳	44	18.2	11.4	13.6	20.5	29.5	22.7	15.9
	45～49歳	26	26.9	19.2	34.6	26.9	46.2	23.1	23.1
	50～54歳	34	20.6	8.8	29.4	23.5	41.2	17.6	14.7
	55～59歳	61	37.7	23.0	16.4	36.1	24.6	24.6	21.3
60～64歳	87	42.5	10.3	25.3	28.7	25.3	14.9	37.9	

	回答者数 (人)	認知症の高齢者を支援する施策	敬老祝金や町会等での敬老事業への支援などの施策	医療費の自己負担分や介護保険の利用料・保険料などを助成する施策	高齢者向けの住宅や家賃補助事業などの住宅施策	その他	わからない	無回答
全 体	359	14.2	2.5	42.9	12.0	1.4	5.3	4.5
性別	男性	146	11.6	2.7	51.4	13.7	1.4	3.4
	女性	203	16.3	2.0	38.4	10.8	1.5	3.9
年齢	20～29歳	32	3.1	3.1	43.8	3.1	0.0	3.1
	30～39歳	65	7.7	0.0	52.3	13.8	3.1	1.5
	40～44歳	44	31.8	2.3	45.5	11.4	0.0	2.3
	45～49歳	26	7.7	0.0	30.8	11.5	0.0	0.0
	50～54歳	34	14.7	2.9	44.1	29.4	2.9	2.9
	55～59歳	61	19.7	1.6	42.6	11.5	3.3	1.6
60～64歳	87	12.6	4.6	41.4	8.0	0.0	9.2	

丸数字は順位